

九州作業療法学会 2024 in 大分

Kyusyu Occupational Therapy Congress 2024 in OITA

挑戦



～作業療法士はイノベーションを起こせるか～



プログラム・学会誌

会期 6/22(土) - 6/23(日)
2024

会場 J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分県大分市金池南1丁目5-1

学会長 佐藤 孝臣
(株式会社ライフリー)

主催 九州作業療法士会長会

九州作業療法学会 2024 in 大分

Kyusyu Occupational Therapy Congress 2024 in OITA

プログラム・学会誌

挑戦

～作業療法士はイノベーションを起こせるか～



会期 2024年6月22日(土)・23日(日)

会場 J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分県大分市金池南1丁目5-1

学会長 佐藤 孝臣 株式会社ライフリー

主催 九州作業療法士会会長会

九州作業療法学会2024 in 大分 事務局

公益社団法人 大分県作業療法協会
〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2
TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663
E-mail: kyuot2024@gmail.com
学会HP <https://kyuot2024.secand.net/>

INDEX

学会長挨拶	1
主催者挨拶	2
会場アクセス	3
会場案内	4
参加者の皆さまへ	6
座長の皆さまへ	9
発表者の皆さまへ	10
優秀演題の表彰について	13
日 程 表	14
プログラム	16
抄 録	
学会長講演	22
特別講演	24
招待講演	26
教育講演 1～3	28
シンポジウム	34
セミナー 1～3	40
公開講座	46
Innovation space	48
九州作業療法士会会長会 MTDLP 企画	50
九州作業療法士会会長会 リーダー養成研修	52
一般演題プログラム	54
組 織 図	70
協賛・広告企業一覧	72
後援団体一覧	73
ロゴマークについて	74
編集後記	74

学会長挨拶

挑 戦

～作業療法士はイノベーションを起こせるか～

九州作業療法学会2024 in 大分

学会長 佐藤 孝臣

(株式会社ライフリー)



2024年6月22日、23日に九州作業療法学会2024を大分県大分市で開催いたします。今回の学会テーマは「挑戦～ 作業療法士はイノベーションを起こせるか～」です。現在の日本、特に九州は人口減少、少子高齢化の流れは年々厳しくなっております。政府も少子化対策や共生社会に向けた政策を打ち出して課題への対応をしています。その中で作業療法士がどのように貢献できるか、そこに「挑戦」する意思を持つことが重要だと思います。「挑戦」とは様々なことに挑むことですが、ただ闇雲に挑むことではなく様々な現象に対して評価をして計画を立て実行して検証する。このプロセスは必要です。その中で結果のでない取り組みは変更する必要があります。そこに新たな取り組みを考え生み出し取り入れることで良い結果に繋がります。つまり「イノベーション」が必要です。

では、我々作業療法士は「イノベーション」を起こせるでしょうか、その答えは本学会の中で見つけることができると考えています。そのように参加者の皆様が実感・体感できる企画を用意しています。多くの作業療法士の皆様にご参加いただき、様々な事に挑戦する機運とイノベーションを感じていただければ幸いです。

また、今回の学会は5年ぶりの対面開催を目指しております。コロナ禍の期間は様々な制約の中、作業療法士の皆様は自己研鑽を積んでこられたと思います。この制約の中でも我々はオンライン等の技術で現地に赴かなくとも学べるツールを手に入れました。このことは今後のグローバル化や学びの多様性を考えれば得るものも多くあったと思います。しかし、人と人が直に会って学び議論することの必要性も改めて感じたのではないのでしょうか。開催地である大分県は別府温泉や由布院温泉をはじめとする多くの温泉を有しています。源泉数、湧出量ともに日本一であり「日本一のおんせん県おおいた」をキャッチフレーズにして観光に力を入れており、海、山と魅力的な自然や観光施設も多くあります。また食も豊富で、からあげ、とり天、関アジ、関サバ、豊後牛、だんご汁など多岐に及んでおります。九州はもとより全国から多くの作業療法士の方々にご参加いただき、直接対面でのコミュニケーションを図る場として本学会をご利用ください。

久しぶりの仲間や懐かしい方との対面の場、そして次世代に向けた「挑戦」の機運を高める場、そのことを具現化する「イノベーション」の起点となる場として本学会をご利用ください。みなさまのお越しを心よりお待ちしております。

主催者挨拶

九州作業療法士会会長会

会長 津輪元 修一

(宮崎県作業療法士会)



平素より九州作業療法士会会長会の活動にご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。主催者を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

九州作業療法士会会長会は、九州で活動する作業療法士の質の向上を目的として、九州各県士会が協力して活動を行っております。九州作業療法学会は、その活動の一環として2019年度から各県持ち回りの形で運営を行っております。コロナ禍の影響で、中止やWEBのみの開催という時期もございましたが、昨年度の鹿児島学会ではハイブリッド形式、そして今回の大分学会では久しぶりに対面での開催となりました。これもひとえに担当していただいた各県士会の運営スタッフの皆様が、粘り強くつないでくださった結果であると、心より感謝申し上げます。

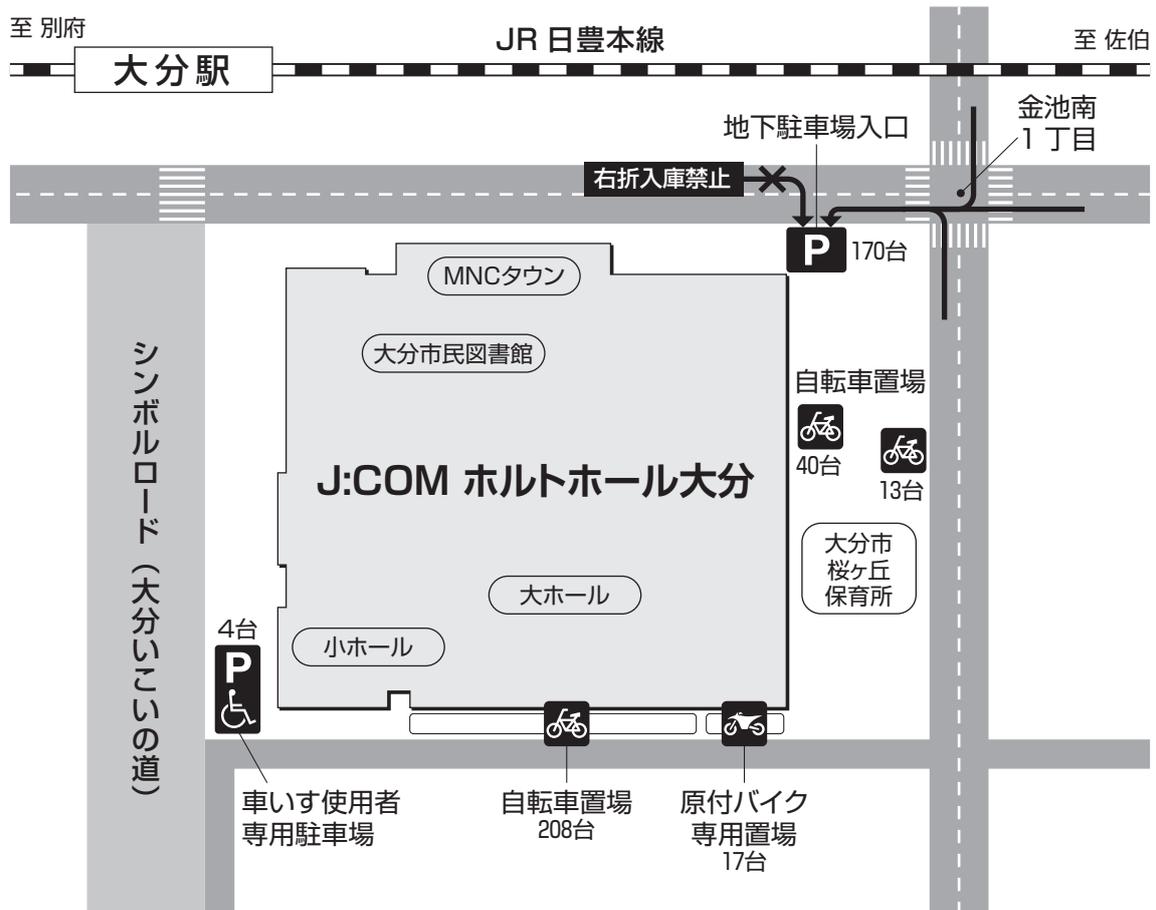
21世紀に入り、もうすぐ四半世紀が過ぎようとしています。様々な分野において技術革新が進み、一見私たちの生活は豊かになったように見えます。ただその反面、世界的にはいくつかの大規模な戦争、それに関連しての食料や燃料価格の高騰、難民の問題、大規模な自然災害の急増といった、まさに地球規模の課題が次々に起きています。日本においては、少子高齢化の影響が様々な場面で見られています。間近に迫った2025年問題、その先の2040年問題に対する取り組みが様々な形で進められています。ほかにも、規制緩和されたとはいえ未だ油断できない存在であるコロナをはじめ、インフルエンザなども含めた感染症対策は今後も重要な課題であると思われれます。

時代ごとに変わる社会状況の中、九州の作業療法士が進むべき指標とは何か？本学会は根底にそのような命題を持ちながら、毎回テーマを設定し、企画・開催しております。

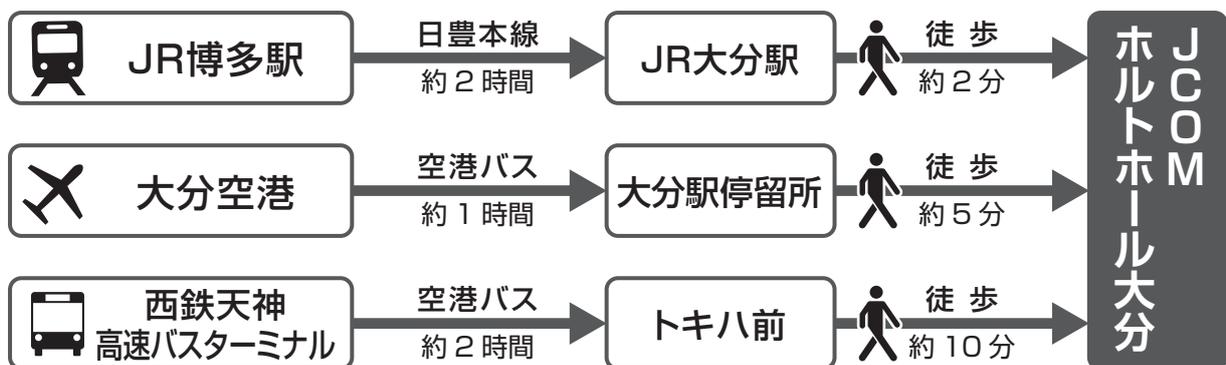
今回の大分学会のテーマは「挑戦 ～作業療法はイノベーションを起こせるか～」です。佐藤 孝臣学会長の挨拶にもありますように、現在の多様な価値観、多様な課題を内包する社会情勢の中で、存在感を示せるような革新的な挑戦を作業療法士は行っていく必要があります。今回の学会の企画内容を見てみると、その答えを参加者が実感できるような企画を多数ご用意いただいていると、今から期待を膨らませております。

最後になりましたが、佐藤学会長をはじめ九州作業療法学会2024 in 大分の企画運営に携わっていただきました、大分県作業療法士会の実行委員の皆様にご心よりお礼を申し上げますとともに、今学会にご参加いただけるすべての皆様の、今後益々のご活躍を祈念致しまして私のご挨拶とさせていただきます。

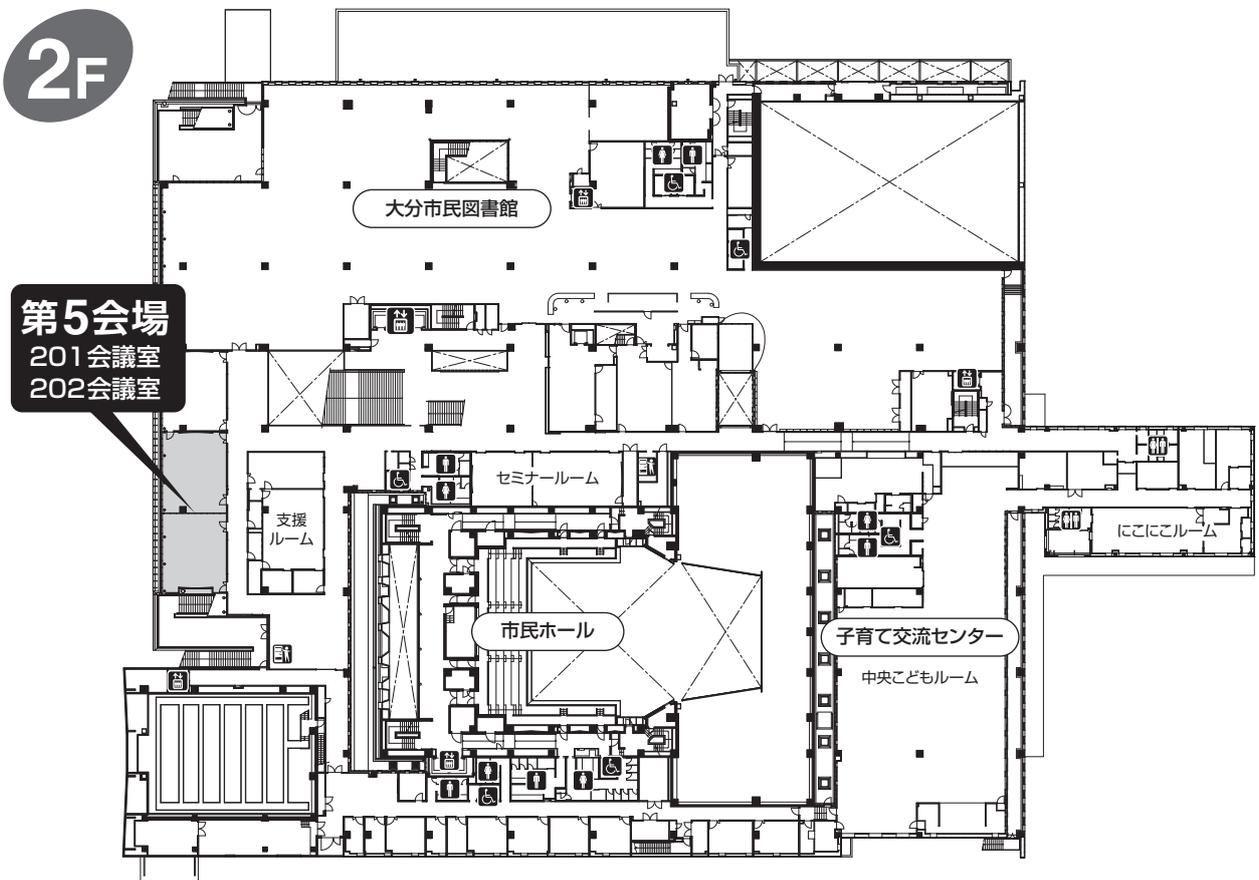
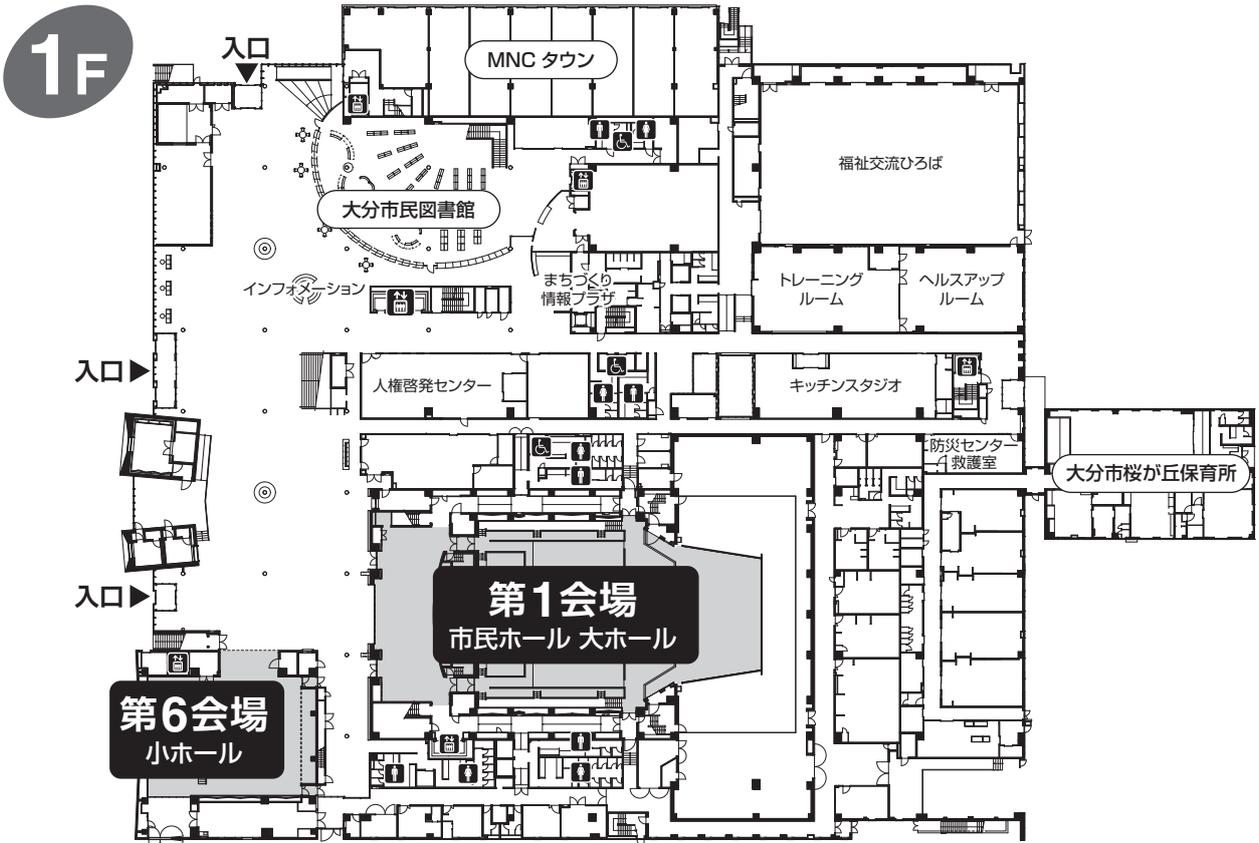
会場アクセス



- 専用駐車場利用時間**… 午前8時～午後11時
 最初の30分無料、以降30分毎に100円
 23時以降の出庫はできません。翌日出庫までの駐車料金が加算されます。
- 地下駐車場** …………… 170台(うち障がい者等用13台 ※車椅子利用者用6台含む)
- 地上駐車場** …………… 4台(車椅子利用者用)
- 自転車置場** …………… 261台
- 原付バイク専用置場**… 17台
 125cc以上のバイク用駐車場はございません。近隣の駐車場をご利用ください。



会場案内



3F

第3会場
302会議室

第4会場
303会議室



4F

第7会場
408会議室

第8会場
409会議室

第9会場
410会議室



参加者の皆さまへ

1. 学会参加費

(1) 作業療法士

(○：加入、×：未加入)

都道府県士会	日本 OT 協会	参加受付		金 額	
				1日目～参加	2日目参加
○	○	事前登録	九州圏内	6,000円	3,000円
			九州圏外	7,000円	
		当日	九州圏内	7,000円	4,000円
			九州圏外	7,000円	
×	○	事前登録	九州圏内	12,000円	
			九州圏外		
		当日	九州圏内	12,000円	
			九州圏外		
○	×	事前登録	九州圏内	6,000円	3,000円
			九州圏外	7,000円	
		当日	九州圏内	7,000円	4,000円
			九州圏外	7,000円	
×	×	事前登録	九州圏内	20,000円	
			九州圏外		
		当日	九州圏内	20,000円	
			九州圏外		

(2) 他職種等

	参加受付	金 額
		両日参加
他職種	事前登録	7,000円
	当日	7,000円
一 般	事前登録	7,000円
	当日	7,000円
学 生	事前登録	1,000円
	当日	1,000円

※学生は OT 養成コース所属の方のみとします。OT 免許所得者で学生（学部生・大学院生）の方は、会員 OT としての参加費をお支払いください。

他職種の方は、所属する職能団体の会員証、または職種を確認できるものをご提示ください。

2. 事前参加登録について

本学会では、下記期間に事前参加登録を受け付けます。
学会当日に会場で参加申込みをすることも可能ですが、できる限り事前登録にご協力ください。

事前参加登録期間： 5月7日(火)～6月14日(金)正午まで

※参加費の入金は6月18日(火)正午まで

3. 学会当日の参加受付について

【受付場所】

J：COM ホルトホール大分 1階 ホワイエ

【受付時間】

1日目：6月22日(土) 9:00～

2日目：6月23日(日) 9:00～

【受付方法】

〈事前参加登録をされた方〉

(1) 受付で必要なもの

① 会員証

「2024年度日本作業療法士協会会員証」及び「各都道府県士会会員を証明できるもの」

② 事前参加登録メール

当日はQRコードにて受付を行います。

事前参加登録後に配信される事前参加登録メールにある参加受付用QRコードをプリントアウトしてご持参していただくか、お手持ちの端末で画面表示した状態で当日会場受付にてご提示ください。

(2) 当日の流れ

① 受付にてQRコード読み込み

② ネームカード記載

参加登録後にネームカードをお渡ししますので、ご自身で記載をお願いいたします。

③ 参加証明証と領収証については、事前参加登録メールから各自ダウンロードしてください。なお、参加証明書は当日の受付終了後からダウンロード可能となります。

〈事前参加登録をされていない方〉

(1) 受付で必要なもの

① 会員証

「2024年度日本作業療法士協会会員証」及び「各都道府県士会会員を証明できるもの」
他職種の方は、所属する職能団体の会員証、または職種を確認できるものをご提示ください。

(2) 当日の流れ

① 当日受付にて参加申し込み・参加費支払い

当日参加のお支払いは現金のみとなりますのでご注意ください。

② ネームカード記載

参加登録後にネームカードをお渡ししますので、ご自身で記載をお願い致します。

4. 学会誌・抄録について

会場での印刷サービス等は実施しておりません。各自、学会ホームページから抄録をダウンロードしてください。学会誌をお求めの方には、受付にて1,000円で販売いたします。但し、在庫がなくなり次第販売を終了します。

5. 会場内サービスについて

【クローク】

場 所：1F 大ホール入口

日 時：6月22日 9:00～20:00

6月23日 9:00～15:00

※貴重品、雨具、ワレモノ、食品類はお預かりできませんのでご了承ください。

【飲 食】

第1会場（大ホール）での飲食はできません。昼食はエントランスホールまたは第3、第4、第5会場をご利用ください。

【駐 車 場】

近隣の有料駐車場をご利用ください。

【Wi-Fi】

一部の会場で Free-Wi-Fi が利用できます。設定は会場の案内でご確認ください。

6. 留意事項

【ネームホルダーの携帯】

会場内では必ずネームホルダーを身に付けてください。ネームホルダーを身に付けていない場合は、入場をお断りする場合があります。

【携帯電話の使用】

携帯電話につきましては会場内では必ずマナーモードに設定してください。通話につきましては、発表会場やポスター発表会場の外でお願いいたします。但し、運営委員は運営上使用する場合がありますのでご了承ください。

【撮影および録音】

会場内での録音、写真、ビデオ撮影等は、著作権保護・プライバシー保護などのため、禁止させていただきます。但し、運営委員は学会記録用として会場内で録音又は撮影をする場合があります。

7. 閉会式および優秀演題の表彰

閉会式にて、優秀演題の表彰を行います。多数の方にご参加いただきますようお願いいたします。なお、最優秀演題投票に関しては、ネームカード裏面のQRコードより投票をお願いいたします。

8. お問い合わせ先

学会期間中のお問い合わせ、およびご不明な点がございましたら総合案内(ホワイエ)へお越しください。(TEL:097-547-8662)

※電話連絡については、緊急時のみご利用ください。

座長の皆さまへ

【事前の準備】

- 1) 6月14日(金)正午までに、学会ホームページより事前参加登録をお済ませください。
- 2) 学会ホームページおよび学会誌で担当セッションの会場・時間等をご確認ください。学会誌は事前に送付します。

【当日について】

- 1) 第1会場前ホワイエにて当日受付を済ませ、担当セッション開始1時間前までに会場前の座長受付にお越しください。
- 2) 担当セッションの開始10分前までに、会場内の座長席近くにお座りになってお待ちください。
- 3) 担当セッションの進行については、すべて座長に一任いたします。なお、1演題の発表時間は7分、質疑応答時間は3分です。発表終了1分前と終了時に係が合図をします。

発表者の皆さまへ

【事前の準備】

6月14日(金)正午までに、学会 HP よりオンライン参加登録を済ませて下さい。
事前に学会誌を配布します。学会誌および学会ホームページで発表セッションと時間をご確認ください。

【発表者受付について】

第1会場前 ホワイエにて参加受付を済ませた後に、担当セッション開始時刻1時間前までに各会場前の発表者受付にて受付を行ってください。

【利益相反の開示】

当学会では、演題発表時に演題発表に関連する企業等との COI の有無および状態について申告することを以下に義務づけます。発表時に利益相反の有無についても述べてください。

〈学会発表における利益相反の揭示方法〉

口述発表(および優秀演題発表)は演題名の次(2枚目)のスライドで開示すること。
ポスター発表はポスターの最下部に開示すること(ポスターレイアウトを参照)。
利益相反のスライド見本につきましては、HP よりダウンロードしてください。

【演題内容に関わる倫理的事項について】

「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(文部科学省、厚生労働省及び経済産業省。令和4年3月10日一部改正)などを遵守し、発表の際に倫理的配慮が必要な場合は口頭で述べてください。

【口述発表(および優秀演題発表)】

1. 口述発表の環境・手続きについて

- 1) 映写面は各会場ともに1面です。
- 2) 会場で用意しているパソコンを使用し、スライドを映写して発表となります。ご自身のPCの持ち込みはできません。
発表はPCプレゼンテーション(OS: Windows、ソフトウェア: Microsoft Office PowerPoint 2011以降のバージョン)のみとします。
こちらで準備しているパソコンのOSはWindowsのみです。Macでスライドを作成する場合は、Windowsで正しく稼動することを事前に確認をしておいてください。発表時に不具合が生じた場合、運営側での責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 3) スライドサイズは、標準(16:9)設定にしてください。

- 4) 発表用スライドは、USB メモリにデータを保存し、当日に受付へ提出してください(トラブルに備えてバックアップデータもご持参ください)。
発表データの保存ファイル名は、「演題番号-氏名-所属」としてください。
(例：O18-九州花男-〇〇病院)
発表用スライドを保存している USB は、必ずウイルス対策ソフトにてチェックを行ったものをご提出ください。
受付横に PC を準備しますので、各自で動作確認をお願いします。
発表用データは、会場内の PC にコピーさせていただきますが、学会終了後に責任を持って消去します。
- 5) アニメーションや動画を用いた発表も可能です。使用は MPEG3, MPEG4, WMV のみとします。ただし、発表時に不具合が生じた場合、運営側での責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 6) フォントは OS 標準*のみご使用ください。
※ MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman
- 7) 発表時のレーザーポインターは使用できません。マウスによるポインターをご使用ください。
- 8) 発表時は発表者ツールを使うことはできません。

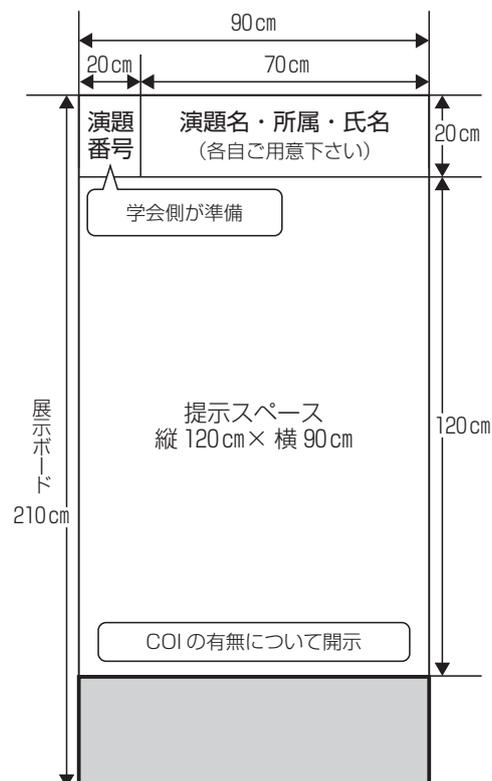
2. 発表の流れについて

- 1) 発表するセッションの10分前には「次演者席」に着席してください。
発表および質疑応答は座長の指示に従ってください。
- 2) 演題発表時間は7分、質疑応答時間は3分です。
発表終了1分前と終了時に合図をします。時間遵守をお願いします。
- 3) 発表は、演台上にセットされているモニター、キーボード、マウスを使用してご自身で操作してください。
- 4) 優秀演題発表は発表時間10分で、質疑応答はございません。

【ポスター発表】

1. ポスターの作成(フォーム)について

ポスターの示説スペースは、縦120cm、横90cm内です。図を参考にして、各自で演題名・所属・氏名(縦20cm、横70cm)を作成してください。ポスターの本文(図表・写真含む)は、文字サイズ・フォントの種類、図表・写真の枚数は特に定めませんが、必ず指定のスペースに収まるように作成してください。



2. ポスター掲示について

1) 学会では以下のものをご用意いたしますので、各自でポスターの掲示をお願いします。

- 掲示パネル
- 演題番号：掲示パネルの左上部に演題番号を取り付け表示します。
- 画鋏：ポスターを貼り付けるための画鋏・ピンをご用意いたします。
- 写真撮影可否シール：演題番号下部に貼り付けてください。

2) ポスターの貼り付けは下記の時間内に各自でお願いします。

6月22日(土) 12:00～13:30

ポスターの撤去は下記の時間内に各自でお願いします。指定時間以降も掲示されているポスターは、学会運営局にて処分いたします。

6月23日(日) 13:00～14:00

3. 発表の流れについて

- 1) 発表者は担当セッション開始10分前までに各自のポスター前に待機してください。
- 2) 今回の発表は、指定された時間内にポスターの前に立ち、参加者と自由にディスカッションしていただく形式となります。
- 3) 発表者は当該セッションの時間中、ポスター前から離れないようにしてください。

【発表ポイント】

筆頭演者は2ポイントの生涯教育基礎研修ポイントが付与されます。認定作業療法士の方は、更新要件の実践報告(25np)として登録できます。

演題採択後、①2024年度の九州各県士会会費の納入、②学会への参加申込みおよび学会参加費の支払い、③発表をもって、本学会でのポイント付与とします。

【代理発表について】

原則、筆頭演者の変更は認めません。不測の事態により筆頭演者が発表できない場合は、共同演者が代理での発表ができるように準備をお願いします。この場合は、共同演者による代理発表として取り扱います。

代理発表ができない場合は演題を取り下げさせていただきます。

【演題に関するお問い合わせ】

その他、演題に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。

九州作業療法学会2024 in 大分

学術局査読担当：佐藤 優

E-mail：kyuotendai2024@gmail.com

優秀演題の表彰について

【審査対象】

本学会で採択されたすべての演題を対象としました。

【審査方法】

一定の基準に基づいて学会準備委員会(学会長と学会学術局委員)で厳正なる審査を行い、計5演題を優秀演題発表として決定いたしました。

最優秀演題について

【最優秀演題審査基準】

1. テーマや内容に創造性や独自性があり、作業療法の発展に貢献すると判断される。
2. 作業療法の目的が適切であり、その目的が論理的プロセスを踏んで達成されている。
3. 他の参加者が聞いて有益な発表内容である。
4. 構成や表現などが優れている。

優秀演題の中から、当日の発表内容、上記1～4の審査基準などを加味し、会場聴講者によるWEB投票で「最優秀演題」を決定します。

表 彰

優秀演題受賞者および最優秀演題受賞者の表彰は閉会式で行います。

日 程 表

1日目 2024年6月22日(土) J:COM ホルトホール大分

	第1会場 1F 大ホール	第2会場 3F 大会議室	第3会場 3F 302会議室	第4会場 3F 303会議室	第5会場 2F 201・202会議室	第6会場 1F 小ホール	第7会場 4F 408	第8会場 第9会場 4F 409・410
9:00	9:00～ 受付 1F エントランス							
10:00	10:00～10:30 開会式							
11:00	10:30～11:45 学会長講演 挑 戦 ～作業療法士はイノベーションを起こせるか～ 講師：佐藤 孝臣 座長：津輪元 修一							
12:00	12:00～13:15 特別講演 司法における作業療法の可能性と未来 ～医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援に向けて～ 講師：宮口 英樹 座長：日隈 武治		12:00～13:00 口述発表 1 地域 ① 座長：田中 聡	12:00～13:00 口述発表 2 運動器疾患 座長：杉木 知武	12:00～13:00 口述発表 3 高次脳機能障害 座長：鳥越 克志	12:00 ～ 13:30 ポスター貼付		12:00 ～ 13:30 学会参加者交流及び憩いの場
13:00								フリールーム
14:00	13:45～14:45 招待講演 これからの作業療法～求められる組織の役割と専門性の追求～ 講師：山本 伸一 座長：佐藤 孝臣		13:45～14:45 口述発表 4 脳血管疾患 ① 座長：光永 済	13:45～14:45 口述発表 5 内部障害 座長：真田 康孝	13:45～14:45 口述発表 6 教育 座長：渕野 浩二	14:00 ～ 17:00 ポスター発表	14:00～15:30 インベーション スペース ①	
15:00	15:00～16:00 教育講演 1 挑 戦 ～産業作業療法の実践～ 講師：元廣 惇 座長：佐藤 友美	15:00～16:00 セミナー 1 地域包括ケアシステム構築に向けた大分県の取組 講師：白岩 敬子 座長：谷口 理恵	15:00～16:00 口述発表 7 地域 ② 座長：田村 浩介	15:00～16:00 口述発表 8 精神障害 座長：山下 瞳	15:00～16:00 口述発表 9 県士会 ① 座長：藤原 一			
16:00								
17:00	16:15～17:15 優秀演題 座長：佐藤 孝臣	16:15～17:15 セミナー 2 トリプル改定で作業療法(士)の評価を高めるためには～No Occupation, No Life～ 講師：遠藤 千冬 座長：高森 聖人	16:15～17:15 口述発表 10 脳血管疾患 ② 座長：豊栄 峻	16:15～17:15 口述発表 11 高齢期 座長：前田 憲志	16:15～17:45 九州作業療法士会会長会 MTDLP企画 MTDLPで実現する作業に焦点を当てた実践 講師：友利 幸之介 座長：自見 美菜		16:00～17:30 インベーション スペース ②	機器展示
18:00								

2日目

2024年6月23日(日) J:COM ホルトホール大分

	第1会場 1F 大ホール	第2会場 3F 大会議室	第3会場 3F 302会議室	第4会場 3F 303会議室	第5会場 2F 201・202会議室	第6会場 1F 小ホール	第7会場 4F 408	第8会場 第9会場 4F 409・410
9:00	9:00～ 受付	1F エントランス						
10:00	9:30～10:30 教育講演 2 挑 戦 ～高次脳機能障害 と再生医療～ 講師：大松 聡子 座長：篠原 美穂	9:30～10:30 セミナー 3 オムロンのICTを活用 した自立支援に資する 地域づくりへの「挑戦」 ～4年間の大分県実 証事業における成 果と今後の展望～ 講師：加藤 雄樹 座長：児玉 隆典	9:30～10:30 口述発表 12 発達障害 座長： 永松 謙一	9:30～10:30 口述発表 13 認知機能 障害 座長： 平野 政治	9:30～10:30 口述発表 14 県士会 ② 座長： 佐藤 暁	9:30 ～ 12:30 ポ ス タ ー 発 表	10:00～ 11:30 イ ノ ベ ー シ ヨ ン ス ペ ー ス ③	9:30 ～ 12:15 学 会 参 加 者 交 流 及 び 憩 い の 場 フ リ ー ス ペ ー ス 機 器 展 示
11:00	11:00～12:30 シンポジウム 地域共生社会の中 で作業療法士がイ ノベーションを起 こすには シンポジスト： 谷川 真澄 遠藤 真史 江渡 義晃 座長：日隈 武治	11:00～12:00 教育講演 3 挑 戦 ～ケニアでの作業 療法～ 講師：浅倉 恵子 座長：山崎 翔太	11:00～12:00 口述発表 15 基礎理論 管理 座長： 浅倉 秀剛	11:00～12:00 口述発表 16 MTDLP 座長： 渡邊 考蔵	11:00～12:45 九州作業療法士会 会長 リーダー養成 研修 九州はひとつ！ 人がつながる 士会活動を語 ろう！！ ～作業療法に 対する想いの 先にあるもの～			
12:00								
13:00	12:45～13:00 次期学会会長挨拶							
14:00	13:00～14:00 公開講座 大分の強み!! 大分県知事として みた景色 講師：広瀬 勝貞 座長：佐藤 孝臣					13:00 ～ 14:00 ポ ス タ ー 撤 去		
15:00	14:00～14:30 閉会式／表彰式							
16:00								

プログラム

学会長講演 6月22日(土) 10:30～11:45

第1会場(大ホール)

座長：津輪元 修一(九州作業療法士会会長 会長、宮崎県作業療法士会 会長)

挑戦 ～作業療法士はイノベーションを起こせるか～

佐藤 孝臣 九州作業療法学会2024in 大分 学会長、株式会社 ライフリー

特別講演 6月22日(土) 12:00～13:15

第1会場(大ホール)

座長：日隈 武治(九州作業療法学会2024in 大分 副学会長、大分リハビリテーション専門学校)

司法における作業療法の可能性と未来 ～医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援に向けて～

宮口 英樹 高知健康科学大学

招待講演 6月22日(土) 13:45～14:45

第1会場(大ホール)

座長：佐藤 孝臣(九州作業療法学会2024in 大分 学会長、株式会社 ライフリー)

これからの作業療法 ～求められる組織の役割と専門性の追求～

山本 伸一 一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

教育講演1 6月22日(土) 15:00～16:00

第1会場(大ホール)

座長：佐藤 友美(湯布院病院)

挑戦 ～産業作業療法の実践～

元廣 惇 株式会社 Canvas 代表取締役
国立大学法人島根大学 研究・学術情報本部 地域包括ケア教育研究センター
The Center for Community-based Healthcare Research and Education 客員研究員

教育講演2 6月23日(日) 9:30～10:30

第1会場(大ホール)

座長：篠原 美穂(杵築市立山香病院)

挑戦 ～高次脳機能障害と再生医療～

大松 聡子 国立障害者リハビリテーションセンター 病院リハビリテーション部
再生医療リハビリテーション室

教育講演3 6月23日(日) 11:00～12:00

第2会場(大会議室)

座長：山崎 翔太(明野中央病院)

挑戦 ～ケニアでの作業療法～

○浅倉 恵子、岩根 美紀、武居 光雄 医療法人光心会 諏訪の杜病院

シンポジウム 6月23日(日) 11:00～12:30

第1会場(大ホール)

座長：日隈 武治(九州作業療法学会2024in大分 副学会長、大分リハビリテーション専門学校)

[地域共生社会の中で作業療法士がイノベーションを起こすには]

シンポジスト：

谷川 真澄 有限会社なるぞ
遠藤 真史 相馬地方基幹相談支援センター拓
江渡 義晃 一般社団法人わたぼうし

セミナー1 6月22日(土) 15:00～16:00

第2会場(大会議室)

座長：谷口 理恵(大分豊寿苑)

地域包括ケアシステム構築に向けた大分県の取組

白岩 敬子 大分県 福祉保健部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進班 課長補佐(総括)

セミナー2 6月22日(土) 16:15～17:15

第2会場(大会議室)

座長：高森 聖人(九州作業療法学会2024in 大分 副学会長、一般社団法人 虹色)

**トリプル改定で作業療法(士)の評価を高めるためには
～No Occupation, No Life～**

遠藤 千冬 日本作業療法士協会 制度対策部長

セミナー3 6月23日(日) 9:30～10:30

第2会場(大会議室)

座長：児玉 隆典(デイサービス楽 二目川センター)

**オムロンのICTを活用した自立支援に資する地域づくりへの「挑戦」
～4年間の大分県実証事業における成果と今後の展望～**

加藤 雄樹 オムロン株式会社 イノベーション推進本部 自立支援事業推進部 部長

公開講座 6月23日(日) 13:00～14:00

第1会場(大ホール)

座長：佐藤 孝臣(九州作業療法学会2024in 大分 学会長、株式会社 ライフリー)

**大分の強み!!
大分県知事としてみた景色**

広瀬 勝貞 前大分県知事

精神障害分野は測ろう！

申込者：福田 健一郎(専門作業療法士) 長崎精神科作業療法研究グループ(通称：皿うどん)
医療法人栄寿会 真珠園療養所

共同発表者：杉村 彰悟 (認定作業療法士) 長崎精神科作業療法研究グループ(通称：皿うどん)
医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院

学習療法[®]を学び、体験ができます！

申込者：藤井 麻紀(作業療法士) 社会福祉法人敬愛会 デイサービスセンターさざんか荘

3Dプリンターで作製した自助具を使った 退院後の地域生活者の課題発見と解決法について

申込者：川口 晋平(作業療法士) アイソトープ

当事者・療法士協働によるデザインと新製品のご紹介

共同発表者：笈沼 清紀 ケアウィル

座長：自見 美菜(村上記念病院)

MTDLP で実現する作業に焦点を当てた実践

友利 幸之介 東京工科大学

リーダー養成研修会

九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！
～作業療法に対する想いの先にあるもの～

抄 録

挑 戦 ～作業療法士はイノベーションを起こせるか～

佐藤 孝臣

株式会社ライフリー

現在、我が国における作業療法士の有資格者数は2024年3月1日現在で113,665人である。1992年の4年生大学の設立から作業療法士が急速に増加してきた。その背景には高齢者の増加、急性期を経てその後のリハビリテーションニーズの増加などがあげられる。それに伴って増加する医療・介護などの社会保障費が適正に運用できるよう早期に社会参加できる仕組みに作業療法が寄与することへの期待もあったのではないかと推測する。

今後は急速な人口減少と少子高齢化、それに伴って生産労働人口の減少、特に介護職の減少は顕著になってくるため適正な社会保障費の運用は重要となる。その中で作業療法士は既存の枠に捕らわれずに新たな挑戦が必要になってくる。今回の学会そして本講演のテーマである「挑戦 ～作業療法士はイノベーションを起こせるか～」の視点が重要となる。

これからは既存のサービスに依存して作業療法を展開するのではなく、我々が自ら挑戦して世の中のニーズに沿った活動をしていかなければいけない。既存の医療、介護、福祉の分野のみならず。様々な産業に作業療法ニーズはないかを探って、そのアプローチ法の創造までを行うこと、つまり挑戦するマインドが必要となる。そして挑戦がその後のイノベーションにつながる。

講演では大分県で推進している自立支援型介護予防の取り組みを紹介したい。介護予防の事業は平成28年度から要支援1.2の軽度者が市町村の事業になっており市町村の実状に合わせて組み立てができる。つまり市町村独自の施策形成ができ地域のイノベーションを起こす事業でもある。特に「生活機能の改善」を目指している総合事業の短期集中予防サービスなどは作業療法ニーズが高い事業である。今回は短期集中予防サービスを中心とした総合事業の取り組みと今後の作業療法ニーズの可能性、そして様々な産業への参入に挑戦する意義とイノベーションを作業療法士自身が起こすために必要な事を述べてみたい。



略 歴

- 1990年 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業
湯布院厚生年金病院 入職
- 2000年 井野辺病院 入職
- 2006年 株式会社ライフリー 代表取締役
- 2022年 株式会社アイトラック 代表取締役
一般社団法人 自立支援・地域づくり支援機構 代表理事

社会活動

- 一般社団法人 日本作業療法士協会 理事
- 厚生労働省：介護予防・日常生活支援総合事業の充実化に向けた検討会 構成員
介護予防普及展開事業 事業所ワーキング 座長
地域づくり加速化事業 アドバイザー
- 大分県：市町村伴奏型支援 スーパーバイザー
- 大阪府：介護予防普及強化事業 スーパーバイザー
- 新潟県：介護予防生活支援強化支援事業 スーパーアドバイザー
- 熊本市：地域ケア会議 スーパーバイザー その他各市町村の地域支援事業への支援
- オムロン株式会社「ICTを用いた自立支援型マネジメント支援」アドバイザー

執 筆

- 地域リハビリテーション 自立のための家事支援 2014. 8
- 失敗しない地域ケア会議 作業療法ジャーナル 2015. 10
- インテークの技術と重要性 作業療法ジャーナル 2016. 8
- 医療—介護連携における作業療法士の役割 作業療法士の役割 2019. 10
- 作業療法士と地域包括ケア 作業療法ジャーナル 2020. 12
- 福祉介護 地域包括ケアの現状 2016. 9
- 実践に役立つ！生活行為向上マネジメント 作業療法ジャーナル 2016. 7
- 作業療法士ができる地域支援事業への関わり 作業療法マニュアル
- 作業療法技術ガイド第4版 文光堂
- 作業療法管理学入門第2版 医歯薬出版 等

司法における作業療法の可能性と未来 ～医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援に向けて～

宮口 英樹

高知健康科学大学

2005年、医療観察法の施行により、指定医療機関における司法精神科作業療法が開始された。心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った精神障害者に対して、OTはリスクマネジメントだけでなく、本人の健康的な側面、その人の強み(ストレングス)に着目し、地域生活支援に尽力してきた。

2007年、刑事収容施設法の改正に伴い、矯正施設において、OTが受刑者に関与し始め、病気や障害を有する受刑者に対する関わりを展開してきた。また2009年には、地域生活定着支援センターが設置され、受刑中の障害者や高齢者に対する「出口支援」が始まり、支援対象の位置付けが明確化された。

2025年6月1日より、懲罰の懲役と禁固を一本化して、「拘禁刑」が改正刑法により施行される。改正により、懲役受刑者に科されている木工や洋裁といった刑務作業が義務でなくなり、立ち直りに向けた指導・教育に多くの時間がかけられるようになるかとされている。このように司法の精度が大きく移り変わる中で地域生活支援を担うOTの役割には、大きな期待が寄せられているのが現状である。

秋元波瑠夫の名著「作業療法の源流、金剛出版1975年」には、「作業療法が精神障害者に対する差別との闘いのなかで、主張され、実践されてきたということである」と述べられている。精神障害者に対する偏見があったように、触法対象者も社会復帰には大きな障壁があるのが現状である。しかしながら、対象者の中には、病気や障害等で生活困窮に至り、その結果犯罪に至ったケースは少なくない。

本講演では、司法領域におけるOTの触法障害者等への支援について、私たちOTにできることは何か、今後の司法領域における作業療法の可能性と未来を踏まえ、医療観察対象者・矯正施設出所者等の地域生活支援に向けて考える機会としたい。



学歴 & 職歴

- 1986年 同志社大学 文学部 社会学科社会福祉学専攻 卒業
1989年 国立善通寺病院付属リハビリテーション学院 作業療法学科 卒業
奈良県心身障害者リハビリテーションセンター
2004年 広島大学大学院 保健学研究科 教授
2008年 広島大学 医学部 保健学科 作業療法学専攻長(兼務 2011年まで)
2010年 医学部長補佐(兼務 2014年まで)
2014年 大学院 医歯薬保健学研究院長補佐(兼務)
2017年 大学院 医歯薬保健学研究科長補佐(兼務)
2018年 医学部長補佐(2022年まで)
2019年 大学院 医科系学研究科 教授
2024年 高知健康科学大学 学長/教授
- 学位：保健学修士(1999年3月)、博士(保健学)(2004年9月)いずれも広島大学

作業療法士協会関連

- (一社)日本作業療法士協会(生涯教育部員、専門作業療法士制度設計委員会委員長 2013年まで)
- (一社)日本作業療法士協会 常務理事(学術部 部長、運転と作業療法委員会担当理事)
- (一社)日本作業療法士協会 副会長(学術部、教育部、国際部担当、学術部長兼務、研究倫理審査委員会 委員長 兼務 2023年まで)
- (一社)日本作業療法士協会 作業療法学全書委員会 委員長 など

加入学会

日本更生保護学会、(一社)日本 COG-TR 学会 副代表理事、日本司法作業療法学会(理事事務局長)、作業療法と生活リスクコミュニケーション学会 代表理事 など

科学研究費等

- 一般就労と福祉的支援の狭間にある少年院在院者へのシームレス認知プログラムの有効性
- 基盤研究(C)2023年度～2025年度(R.5～R.7)
- 発達障害等の傾向を有する少年院在院者への認知機能強化介入プログラムの有効性
- 基盤研究(C)2019年度～2021年度(R.1～R.3)
- 一般就労と福祉的支援の狭間にある少年院在院者への微細運動調節プログラムの有効性
- 基盤研究(C)2020年度～2022年度(R.2～R.4)
- 身体的不器用さをもった医療少年院在院者への認知機能強化介入プログラムの有効性
- 挑戦的萌芽研究 2015年度～2016年度(H.27～H.28) など

これからの作業療法 ～求められる組織の役割と専門性の追求～

山本 伸一

一般社団法人 日本作業療法士協会 会長

令和6年6月22日(土)、大分県J:COM ホルトホール大分にて、「九州作業療法学会2024in 大分」が開催されます。積み重ねてこられました先人の先生方の弛まないご努力ご尽力に敬意を表します。そして今回、当会員の皆様や運営事務局等により、盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

本学会は、佐藤孝臣大会長のもと、テーマは「挑戦 ～作業療法士はイノベーションを起こせるか～」でございます。このテーマをいただいた時には、学会長の思いが、そして情熱が心に伝わりました。作業療法に対する強い愛を感じます。九州作業療法学会2024 in 大分、きっと会場全体が熱い議論になることでしょう。

一方、ウクライナ問題等やアフター(With)コロナに影響される生活様式は、物価高騰の影響やICTの導入等により様々な場面で転変しています。私たちの暮らしそのものだけでなく、高齢者や障害を持った方々の生活においても同様です。作業療法場面でも、環境づくりや効率的な介入の工夫等、これまでとは異なった関わりが必要です。しかし作業療法の「核」として、対象者の生活に寄り添うことは何ら変わりません。今こそ、専門職としての自覚を深めたいと思います。

目指すのは「輝いている患者さん(利用者さん)、輝いている作業療法士」です。それを支える「魅力のある各都道府県士会と日本作業療法士協会」。昨今、組織率が取り沙汰されておりますが、これこそが組織率を保つ源だと思えます。

2025年は目前、そして2040年問題も控えています。課題は山積です。作業療法士の活躍の場は、乳児から高齢者まで、介護予防から急性期・回復期・生活期、そして終末期のすべてです。バランスの良い作業療法士の配置を。在宅復帰に留まらず、就学・就労・趣味拡大等、いきがいをを持った「真の暮らし」のために作業療法があります。わたしたち作業療法士だからわかること、そして出来ること。士会-協会の連携をさらに強化し、力を合わせてまいりましょう。

今回、作業療法に纏わる状況の整理と制度関連等を振り返り、組織再編等に向けた日本作業療法士協会の動向もご紹介いたします。そして、私自身の臨床動画とともに、「変わるべきこと、変わらないこと」を皆様と共有したいと思えます。

第4次5か年戦略を推進中でございます。私たちの未来は、私たちの手で創らなければなりません。臨床作業療法の最良の質と量の提供のために、全国の組織が手を取り合い、一体となって歩んでまいりましょう。

結びになりますが、九州作業療法学会2024 in 大分の盛会と九州の作業療法士会の益々のご発展を祈念いたします。これからも何卒よろしくお願ひ申し上げます。



略 歴

- 昭和62年3月 愛媛十全医療学院 作業療法学科 卒業
昭和62年4月 医療法人財団加納岩 山梨温泉病院(現社会医療法人 加納岩
山梨リハビリテーション病院)入職
令和5年6月 一般社団法人 日本作業療法士協会 会長 就任
令和5年7月 社会医療法人加納岩 山梨リハビリテーション病院 名誉副院長

受賞歴

平成28年(2016) 厚生労働大臣表彰

一般社団法人 日本作業療法士協会活動

- 平成13年8月(2001)～平成21年7月 理事
平成21年8月(2009)～平成29年5月 常務理事
平成29年6月(2017)～ 副会長
令和5年6月(2023)～ 会長

社会活動

- 学校法人 健康科学大学 評議員
一般社団法人 日本リハビリテーション病院施設協会 理事
一般社団法人 日本福祉用具供給協会 理事
一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団 評議員 等

著 書

- 1) 山本伸一・伊藤克浩・高橋栄子・小菅久美子編集: 活動分析アプローチ 青海社 2005
- 2) 山本伸一編集: 中枢神経系疾患に対する作業療法～具体的介入論から ADL・福祉用具・住環境への展開～ 三輪書店 2009
- 3) 山本伸一・伊藤克浩・高橋栄子・小菅久美子編集: 活動分析アプローチ第2版 青海社 2011
- 4) 山本伸一編集: 疾患別 作業療法における上肢機能アプローチ 三輪書店 2012
- 5) 山本伸一監修: 重度疾患への活動分析アプローチ 青海社 2013
- 6) 山本伸一編集: 臨床 OT-ROM 治療 ～運動解剖学の基本的理解から介入ポイント・実技・症例への展開 三輪書店 2015
- 7) 山本伸一監修: CVA×臨床 OT ～「今」リハ効果を引き出す具体的実践ポイント～ CBR 2020等
- 8) 山本伸一編著: 脳卒中に対する臨床上肢機能アプローチ 三輪書店 2023

挑 戦 ～産業作業療法の実践～

元廣 惇

株式会社 Canvas 代表取締役
国立大学法人島根大学 研究・学術情報本部 地域包括ケア教育研究センター
The Center for Community-based Healthcare Research and Education 客員研究員

本邦では、将来的な労働人口の減少を見越して、「労働者が健康で働き続けられること」が企業の重要な経営課題となっています。このような社会背景から従業員の健康増進・健康管理を経営課題として捉え、その実践を図ることで会社の生産性向上を目指す経営手法である「健康経営」という概念が、近年急速に産業界や一般社会に広がっています。

2021年3月に創業した「株式会社 Canvas」は産・官・学・金の各機関との「地域共創」による連携体制を構築し、仕事起因の様々な健康問題を「職業病」として解釈し、作業療法の専門性を活かした健康経営支援コンサルティングを幅広く展開しています。

サービスの導入企業数は、2023年11月時点で約70企業まで増加し、中国地方の各企業を中心に徐々にエリアを拡大しています。導入前後の効果として、数百万単位の労働生産損失額の減少、入職者の増加、離職者の減少など複数の経営上の望ましい成果をあげています。

これまでの社会的な評価として、全国法人会が主催する「健康経営大賞2022, 2023」で弊社の導入事例が47都道府県事例の「最優秀賞」および「優秀賞」を受賞し、さらに事業モデルが経済産業省「地域課題解決事業推進に向けた基本方針」にて掲載されました。また全国の法人に対して事業のフランチャイズ展開(現在約30都道府県を予定)も進んでいます。

作業療法士は医療従事者の中でも特に対象者の「暮らし」や「仕事」など人間らしさに根ざした観点から支援する強みがあり、本来、「社会の複雑性に真に向き合うことができる哲学と能力を有した職業」であると私は信じています。弊社の挑戦の形が国内外での作業療法士の新たな役割とキャリアを見出す契機となることを期待したいと思います。



略 歴

作業療法士免許を取得後、複数の医療機関で臨床業務を経験する。全国最年少30歳で作業療法士養成課程学科長に就任したのち、株式会社 Canvas を共同創業する。現在は同社の代表取締役、島根大学客員研究員を務めており、国内外複数大学の非常勤講師、様々な機関の理事、学術誌及び学会の査読委員などを兼任している。また、コンサルタントとして全国の会社、学校法人、個人など複数の顧客に関わっている。

主な受賞歴として「法人会健康経営大賞2022最優秀賞、2023優秀賞」「Tokyo Design Week Award 2016」等、主な著書として『働くひとと「ともに創る」作業療法』（クリエイツかもがわ）『セラピストのキャリアデザイン』（三輪書店）などがある。（その他学術論文25編、学会発表43報、外部研究費獲得4件、講演84回、メディア掲載62回）。

資格等

博士(医学)、認定作業療法士、国家資格キャリアコンサルタント 他

挑 戦 ～高次脳機能障害と再生医療～

大松 聡子

国立障害者リハビリテーションセンター 病院リハビリテーション部 再生医療リハビリテーション室

脳卒中後の機能回復には、神経細胞や軸索の構造的変化(anatomical plasticity)と、繰り返しの神経入力による使用頻度依存の機能的変化(use-dependent plasticity)の2つのメカニズムに大別される。再生医療は、損傷された神経細胞や軸索の修復を目指すもので、anatomical plasticityを促進することが想定され、従来の機能回復の頭打ちを打開するための取り組みとして位置づけられる。一方、作業療法は、損傷由来の構造的変化を基盤として、use-dependent plasticityを通じて機能改善を目指すものである。したがって、再生医療と作業療法は、脳卒中後の高次脳機能障害に対する回復において相補的な役割を果たすと考えられる。

我が国では、札幌医科大学や北海道大学、広島大学による自家骨髄間葉系幹細胞投与、東北大学やヘリオス社、帝人ファーマ社、サンバイオ社による他家骨髄間葉系幹細胞投与、国立循環器病センターによる自家骨髄単核球細胞投与など、様々な再生医療の臨床治験が進められている。その多くは安全性や運動麻痺の改善に焦点が当てられており、高次脳機能障害に対する効果はまだ十分に検証されていない。

脳卒中後に生じる高次脳機能障害は注意障害、半側空間無視、失語症、遂行機能障害など多様な症状であり、これらの症状は日常生活や社会参加に大きく影響を及ぼす。そのため、再生医療の効果検証を行う際には、生活自立度の他、症状に応じた機能的な評価項目を用いる必要がある。再生医療の進展に伴い、より効果的なリハビリテーションを提供するために、以下の3つのことが求められる。

1. 再生医療の基礎知識や最新の研究動向に対する理解
2. 再生医療後の患者の回復過程を把握するための評価指標の選定と枠組みづくり
3. 再生医療と作業療法の相乗効果を最大限に引き出すため、随時更新される医学的エビデンスをもとに諸症状改善を実現するためのアプローチの在り方や評価の観点を再考する機会をつくることによる、リハビリテーションの質の向上

本講演では、これまで我々が慢性期脊髄損傷症例の治験を通じて取り組んできた経験をもとに、作業療法士の今後の役割と課題について述べる。再生医療によって我々の仕事が奪われるというものではなく、むしろ我々の仕事の価値を高めるものと筆者は認識している。再生医療が現実の選択肢となる時代に備えて、作業療法士としての役割と課題を共有し、皆さんと議論したい。



略 歴

広島大学を卒業し作業療法士免許を取得後、回復期病院と脳神経外科病院で主に脳卒中を中心とした中枢神経疾患の急性期から維持期にかけた支援に従事し、新人教育担当や急性期病棟管理、チームリーダー等の役割を担う。その後、国立障害者リハビリテーションセンター研究所に研究員として従事し、2020年から現職に所属。現在は作業療法士として脊髄損傷者に対する再生医療の慢性期治験に携わりながら、半側空間無視や視野障害の残存機能の定量的評価やリハビリテーションに関する研究にも従事。

- 2008年 広島大学 医学部 保健学科 卒業
おおくまりリハビリテーション病院(現 はくほう会セントラル病院)入職
- 2010年 医療法人穂翔会 村田病院 入職
- 2013年 畿央大学大学院 健康科学研究科 修士過程 修了
- 2017年 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 運動機能系障害研究部
研究員
- 2019年 畿央大学大学院 健康科学研究科 博士過程 修了
- 2020年 国立障害者リハビリテーションセンター病院(現職)

挑 戦 ～ケニアでの作業療法～

○浅倉 恵子、岩根 美紀、武居 光雄

医療法人光心会 諏訪の杜病院

途上国の医療福祉保健改善支援を目的に、ケニア共和国(以下、ケニア)で2013年より現地 NGO 法人『Dream World Healthcare Programme』を設立し、貧困層居住地域を中心とした健康維持及び向上(公衆衛生教育、栄養指導等)と、生活の質改善のために巡回診療を開始した。2021年からはスラム街の幼稚園、小学校、中学校ならびに児童養護施設の学童検診も開始し、2023年1月末時点で延べ145回69,879人のケニア国民の巡回診療を行った。

また巡回診療をスタートとした2013年に『Limited Company : Grand Forest Japan Hospital』を設立し、臨床検査、画像診断及び治療センターである『Forest Japan Medical Centre』をオープンした。さらに2020年には、ナイロビ市内にあるショッピングモールの一角に、『Forest Japan Rehabilitation Centre』をオープンし、ケニア人セラピストとともにケニア国民に対するリハビリテーションを展開している。

現在ケニアでは経済成長に伴い、HIV/AIDS や Malaria などの感染症による死亡数が減少する反面、肥満等による生活習慣病が引き金となって起こる脳血管疾患や心疾患が問題となっており、ケニア保健省も、これらの生活習慣病に対する政策目標を掲げ取り組んでいる。しかし、目覚ましい経済発展の一方で、ケニアでは1日2.15US\$以下で生活している貧困層が約3割(29.4%)。1日6.85US\$以下で生活している中流層を入れると、総人口の8割以上(86%)を占めるなど相対的貧困層も増えている。そのような国民においては、ケニヤッタ国立病院のような公的機関しか受診できず、しかもお金がないとそこでの治療さえ受けられないという状況である。

このような環境の中で、私たちは一人でも多くのケニア人が生活の質に目を向けることができ、さらに障害を持った方々が社会参加できる機会を奪われないリハビリテーションの展開について模索してきた。本講演では、Forest Japan Rehabilitation Centreでのリハビリテーションやケニヤッタ国立病院をカウンターパートとしてスタートする JICA 草の根技術協力事業などケニアでの作業療法の挑戦についてご紹介したい。



略 歴

平成12年3月 平松学園 大分リハビリテーション専門学校 卒業
平成12年4月 医療法人光心会 諏訪の杜病院 入職
平成17年4月 ♪ リハビリテーション部 主任
平成22年11月 ♪ 部長
平成26年6月 同法人 どんぐりの杜クリニック 異動
令和3年9月 同法人 統括部長

平成12年4月に入職。平成19年より大分県高次脳機能障害支援拠点機関支援コーディネーターとして、高次脳機能障害者及びそのご家族の相談支援に携わった。平成26年からは、どんぐりの杜クリニックに異動し、発達障害のお子さんへの支援を開始。園や学校訪問、巡回相談など地域支援にも携わっている。また同法人が平成25年より途上国の医療福祉保健環境改善を目的に開始した海外支援活動において、平成30年始めてケニア共和国へ渡航。その後、ケニアアッタ国立病院やリハビリテーション養成校での講習会、巡回診療や学童健診、ケニア現地法人が運営する Forest Japan Rehabilitation Centre での教育指導を目的に複数回渡航を経験。令和6年度より JICA 草の根技術協力事業(3ヵ年)ケニア共和国のリハビリテーション評価システムや治療に対する教育システムの構築に向け、活動している。

社 会

大分県作業療法協会 常務理事
特定非営利活動法人 ZIPANGU MILELE 基金理事
日本作業療法士協会広報戦略委員会 委員

研究協力

- 学童期・青年期にある高次脳機能障害に対する総合的な支援に関する研究
「学童期の集団活動に必要なプログラムの検討」
一般社団法人日本損害保険協会 自賠責運用益拠出事業研究 2013～2015
- 高次脳機能障害者のピアサポート活動支援に関する研究
一般社団法人日本損害保険協会 自賠責運用益拠出事業研究 2020～2022

[地域共生社会の中で作業療法士がイノベーションを起こすには]

作業療法そのものがイノベーションツール

谷川 真澄

有限会社なるぞ

ふと思った。対象者にとって作業療法や作業療法士との関わりはどんなものだろうか。

作業療法や作業療法士は、生活の阻害に直面した人々に、それでもやれることに向けて助言・指導し、今まで備わってなかった知識を提供し、置かれた状況を理解してもらうことである。対象者個人の中と外に無かったものを新たに生み出すこと、つまり対象者にイノベーションを起こすことではないかと考えた。

では、作業療法士が向き合うのが、対象者個人でなく、地域全体や、組織や広く言えば社会だった場合、どんなことができるのだろうか。

結論はこうだ。対象が何であれ、多様な課題に対し、目的目標を定め解決の糸口や方法(活動や事業)を見つけ出し、実行し継続するマネジメントを実施することなんだと。

共通するポリシーは、地域における人の暮らしの充実や幸福を目指すことである。



Episode 1 事業所—地域

「有限会社なるぞ」が企画した自立と共生を目指す自主サロンの取り組みは、事業所が起こす地域イノベーションである。行政から見た費用対効果と、事業として実施することの採算性、そしてこの取り組みが本当に地域の人たちに元気をもたらすのか、それらが折り合うところを目指して段階的に進めてきた。地域に根を下ろす事業にするための取り組みである。

Episode 2 協会組織

2023年度から地域へのOT参画をコーディネートする担当OTを1,718の市町村ごとに配置する事業が、協会・士会連携で始まった。全国でこの組織化が進むことで、良質な作業療法が地域に供給される仕組みを目指している。

作業療法の価値が社会に通用するのか、生活行為の向上が国民の支持を得るのか、これからの数年が勝負である。協会はこの他にも組織的イノベーションを進めている。



略 歴

昭和61年 社会医学技術学院 卒業
作業療法士資格 取得
福井総合病院 リハビリテーション科 勤務

平成5年 老人保健施設まだら園 リハビリ課 課長

平成8年 加賀こころの病院 作業療法室 課長

平成16年～ 有限会社なるぞ 代表取締役

主な現役職・委員等

- 一般社団法人日本作業療法士協会 常務理事
(地域社会振興部 組織率対策 よんばち協議会 人事管理制度 担当)
- OT 組織マネジメントネットワーク 幹事
- 福井県自立支援型地域ケア会議支援事業アドバイザー

資 格

認定作業療法士
MTDLP 指導者
介護支援専門員
福祉用具プランナー

執 筆

- 最新作業療法学講座 地域作業療法学 第15章起業と管理運営 医歯薬出版 2023.12
- 地域保健領域の作業療法『作業療法ジャーナル』第56巻3月号 2022.3
- 作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント改訂第4版 2022.3
- 特集 脳卒中 脳卒中の人に対する生活行為向上マネジメント(MTDLP)
- 作業療法ジャーナル 別冊 VOL.55NO8 2021
- 事例で学ぶ生活行為向上マネジメント第2版 一般社団法人日本作業療法士協会
編著 医歯薬出版 2021 等

2024.1.18 現在

[地域共生社会の中で作業療法士がイノベーションを起こすには]

相談支援から考える 地域共生社会と作業療法(士)とのリンケージ

遠藤 真史

相馬地方基幹相談支援センター拓

私の臨床経験のほとんどは作業療法士の資格を持ち、相談支援専門員としての相談業務だ。障害者総合支援法の相談支援事業の1つで、市町行政の委託を受けて行う委託相談支援や基幹相談支援センターに所属し、病気や障害の有無に係わらず、誰でも利用が出来る相談窓口として幅広く相談を受けている。子供から高齢者まで、ご本人、その家族や関係者など様々な方が来訪し、子育て、学校、就労、家族関係、経済、虐待、参加、医療など、ライフステージ、ライフイベントにそった様々な相談がある。もちろん、相談だけで解決するわけではないため、まちの中にある様々な社会資源やその人々と、顔見知りになり、ユーザーが困っていることや、これからの生活を一緒に考えていく。

しかしながら、個別支援を進めていくと、支援が上手くいかないこと、ユーザーのニーズに応えられないこと、解決できない課題も多く出てくる。相談支援の業務は、地域課題を整理し、各種行政計画と照らし合わせ、既存の社会資源の見直しや新たな社会資源を作ることも大きな役割であるため、地域課題に添った官民協働での体制整備、まちづくりへの一助に取り組んでいるところである。具体的には下記の通りで、

- 地域のイベント企画運営で、企業や住民とつながり、就職先、実習先が得られ障害者雇用が推進されたこと。→企業社員向けの講習やメンタルヘルスサポート。
- スタッフが私的に通う着付け教室の先生から、保証人無しでのアパートを貸して頂けたこと。→公的な居住サポート支援事業へ。
- 利用者が自身の体験を地域住民向けに講話し、精神障害はよくわからないけど、特別なものじゃないと言ってくださったこと。→ピアサポートグループの設立へ。
- 保健師の同行訪問や学校教員とのケース会議を続け、10年関わった多問題家族のA君が希望する大学に進学をしたこと。→医療保健福祉教育が連携し、全小中学校を巡回相談する、子どもの支援体制を整備。教育委員会内に作業療法士の配置。
- ゴミ屋敷に住む統合失調症未治療の70歳のAさんが希望通り、自宅で入院に頼らずに暮らしていること。→意思決定支援の実践と成年後見人制度の利用を推進。
- 官民共同で話し合った行政計画の目標や目標値が達成できたこと。→地域移行者数や就職者数の達成。相談支援体制や緊急時の受け入れ態勢の整備など。

本シンポジウムでは、相談支援業務を通し考える地域共生社会にむけた実践とその過程をお伝えし、シンポジストの皆さんと地域共生社会と作業療法士のリンケージを確認しながら、参加者の皆さんが一步踏み出す機会になればと思う。



略 歴

1977年生まれ 福島県いわき市出身。作業療法士・相談支援専門員。

2001年3月 国際医療福祉大学 保健学部 作業療学科 卒業
(栃木県大田原市)

2001年4月～2003年3月 国際医療福祉リハビリテーションセンター
(栃木県大田原市)

2003年4月～2021年3月 NPO 法人那須フロンティア(栃木県那須塩原市)

2021年4月～2023年9月 高野病院(福島県双葉郡広野町)

2023年10月～現在 相馬地方基幹相談支援センター拓(福島県南相馬市)

1999年に大学3年時にNPO 法人那須フロンティアの設立に参加。『障がいや病気の有無にかかわらずメンタルヘルスを中心とした豊かなまちづくりへの寄与』を目的に、官民協働で行政、地域の各団体と一緒にまちづくりを実践。まちづくりを主眼に置きながら、相談支援専門員として子供から高齢者まで、障がいの有無に関係なく幅広く相談を受け、療育支援、就労支援、精神障がい者の地域移行支援、居住サポート支援など包括的に体制整備を行う。その後、福島県に戻り、東日本大震災・原発事故後に各地に避難された住民の帰還支援のへの一助として、医療機関、基幹相談支援センターにて相談支援専門員として従事している。

[地域共生社会の中で作業療法士がイノベーションを起こすには]
「したいこと」の実現に「士会」を活用する！

江渡 義晃

一般社団法人わたぼうし

本学会にお招きいただき、心より御礼申し上げます。

私自身、イノベーションを起こしている実感はなく、イノベーションを起こした先輩方にご指導いただき、あとをついていっている感じです。ただ、これまでを振り返ると、私が佐賀県作業療法士会(以下、士会)で取り組んできた活動には挑戦といえる要素もあり、ひょっとするとイノベーションと呼んでいただけるかもしれません。

作業療法士になって、障害をもつ子どもさんを対象としたの医療機関で働き始め、3年目くらいから士会活動に関わっています。士会が地域包括ケアシステム構築の推進に取り組み始めた頃に、介護保険関係の活動に携わることもありました。高齢者支援の知識が十分とは言えませんでした、地域で生活するためにどのような支援が必要かを考え、作業療法士として伝えてきました。この活動の中で、高齢者への支援と子どもさんへの支援との間に共通項があることに気づきました。ちょうど、発達障害をもつ子どもさんに対し、生活の場である地域で支援する必要性を改めて感じ、医療現場に身を置きながら地域にどう関われるのかを考えていた頃でした。この頃、士会にはまだ発達領域を担う部署がなかったので、士会の立場で子どもさんへの地域支援に取り組めるのではないかと考え、委員会の立ち上げを提案し、携わらせていただきました。これを機に、幼稚園、保育園、学校、放課後児童クラブといった地域に関わる機会を得て、その経験の中で、改めてその重要性を実感しました。

これらの経験の中で得た最大の財産は、仲間です。作業療法士の先輩、後輩だけでなく、多職種の方々と仲間になれたことは非常に心強く思います。地域生活支援に作業療法が有効なことは事実ですが、作業療法士だけでより住みやすい地域を作ることはできず、様々な職種の方との協力、連携が不可欠です。そのためには、お互いに意見を述べ合え、協力を求め合え、認め合える関係性作りが大切だと思います。より住みやすい地域を作ろうとする仲間を得る機会を、士会活動が与えてくれました。

専門職団体に所属することは、各種の情報等を提供してもらうことだけではありません。自ら実践したいことを発信し、意見を述べ合い、行動に移せる仲間を得る機会を作ることもできます。これは自身の満足感を得るだけでなく、地域貢献、そして啓蒙にもつながります。

今、したいことができていないと思う方は、士会の活用もその手段になり得るかもしれません。職場内での実践だけでなく、広く仲間を求め、協力を得て、実践につなげる方法を探りたいと思います。きっと新たな発見があり、前進できると思います。

当日は、これまでの経験から何を感じ、どう考え、どのような取り組みをしてきたかをお伝えしたいと思います。参加者の皆さまの今後の活動に少しでもお役に立てれば幸いです。



学 歴

1993年3月 労働福祉事業団 九州リハビリテーション大学校 作業療法学科 卒業

職 歴

1993年4月～2008年9月 社会福祉法人佐賀整肢学園 こども発達医療センター
2008年10月～2021年3月 社会福祉法人佐賀整肢学園 からつ医療福祉センター
2020年7月～現在 一般社団法人わたぼうし 理事長
2022年4月～現在 児童発達支援・放課後等デイサービス ひなたぼっこ
管理者 兼 児童発達支援管理責任者

現在の役歴等

一般社団法人日本作業療法士協会 代議員 認定作業療法士
一般社団法人佐賀県作業療法士会 副会長
一般社団法人佐賀県リハビリテーション3団体協議会 代議員
一般社団法人わ・Wa・わ 理事
日本小児リハビリテーション医学会 評議員
一般社団法人全国児童発達支援協議会 会員
特定非営利活動法人日本脳性麻痺・発達医学会 会員
集団作業療法を考える会さんやまち 代表

地域包括ケアシステム構築に向けた大分県の取組

白岩 敬子

大分県 福祉保健部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進班 課長補佐(総括)

大分県は(1)地域ケア会議、(2)自立支援型サービス、(3)通いの場の3つを柱に地域包括ケアシステムを推進。

(1) 地域ケア会議 ～地域包括ケアシステム構築の核となる機能～

- 高齢者の自立支援(生活課題の解決)に資するケアマネジメントや介護サービスを推進
- 個別のケアプランを多職種で検討する「地域ケア会議」の導入(H24～)

(2) 自立支援型サービス ～生活機能を改善するサービスの推進～

- 介護現場にリハ職・管理栄養士・歯科衛生士等の専門職を派遣し支援
- 自立支援型サービスを実践するためのマニュアルを作成
 - ・「通所サービス生活機能向上支援マニュアル」
 - ・「自立支援ヘルパー実務マニュアル」
- 短期集中予防サービス(C型)の推進
 - ・短期集中予防サービスに関する講演を市町村単位で開催
 - ・短期集中予防サービス(通所)は全18市町村で実施
- ICTを活用した自立支援型ケアマネジメントの推進

(3) 通いの場 ～住民主体の介護予防の推進

- めじろん元気アップ体操の開発・普及(H24～)
- 地域の介護予防活動支援マニュアルの作成・普及(H29～)
- 地域づくりによる介護予防活動表彰(H30～)
 - ⇒10年連続通いの場参加率が全国1位(参加率15.2%(R4))

大分県は「健康寿命日本一」を目指します。

- ・大分県の健康寿命(R3年12月発表) 男性：73.72歳(全国1位)
女性：76.60歳(全国4位)



略 歴

平成6年 大分県庁 入庁
平成20年 大分県 福祉保健部 高齢者福祉課
平成22年 大分県立病院
平成29年 大分県 福祉保健部 高齢者福祉課 主査
令和5年 現職

トリプル改定で作業療法(士)の評価を高めるためには ～ No Occupation, No Life ～

遠藤 千冬

日本作業療法士協会 制度対策部長

報酬改定は医療、介護、障害福祉サービスに従事する作業療法士にとって、業務に直結する、身近に関心のあることだろう。まず気になるのは目の前のこととして、書類の様式がどうなるのか、病棟へ配置されるのか、算定のために必要な研修があるのか、働き方が変わるのか、給与に反映されるのか…といったことだろうか。

2024年度は、2年に一度の診療報酬改定、3年に一度の介護報酬改定、障害福祉サービス等報酬改定が重なる6年にいちどのトリプル改定の年度である。前回のトリプル改定である2018年度改定では、団塊の世代が全て75歳以上の高齢者となる2025年に向けた道筋を示すものとして、医療機能の分化・強化、連携や、医療と介護の役割分担と切れ目のない連携を着実に進める改定がなされ、今回の2024年度改定はその流れを継承しながら、ポスト2025年のあるべき医療・介護の提供体制を見据えつつ、DX等の社会経済の新たな流れも取り込んだ上で、効果的・効率的で質の高い医療サービスの実現に向けた取組を進める必要がある、とされた。あわせて、必要な処遇改善等を通じて、人材確保や賃上げに向けた取組も行われることとなった。

こういった、改定で国が目指す目的や方向性と、今日の前の対象者に対して行っている作業療法のあり方やそれに対する評価、報酬は繋がっている、と認識しているだろうか。もしそれが繋がっていない、合致していないと感じるのであれば、その理由はなんだろうか。

日本作業療法士協会では前回の各報酬改定直後から、会員調査、領域ごとの意見交換会、会員からの報酬改定に関する意見募集、先駆的事例の収集や調査研究等に基づき、関連団体と連携しながら報酬改定に向けた活動を多方面に行ってきた。これまでも制度上、報酬上の評価の出発点は作業療法士一人ひとりの科学的根拠に基づいた実践ではあったが、今後はその結果がより直接的に反映される方向に動いている。

報酬改定における協会の取り組みを報告し、作業療法士一人ひとりの実践がどのように報酬改定につながっていくのかをお伝えし、必要とされる職種であるために、一人ひとりが何を行い、何を伝えていくべきか、ともに考える機会としたい。



学 歴

1997年 国際基督教大学 卒業
2002年 九州リハビリテーション大学校 卒業

職 歴

2002年 社会福祉法人福岡市社会福祉事業団 入職
2017年 一般社団法人日本作業療法士協会 入職

近 著

作業療法マニュアル73「精神科作業療法部門 運用実践マニュアル」(分担執筆)
作業療法マニュアル79「精神科作業療法計画の立て方」(分担執筆)

オムロンの ICT を活用した 自立支援に資する地域づくりへの「挑戦」 ～4年間の大分県実証事業における成果と今後の展望～

加藤 雄樹

オムロン株式会社 イノベーション推進本部 自立支援事業推進部 部長

大分県は、すべての県民が生涯にわたり、健康で活力ある生活を送ることができるよう「健康寿命日本一」の実現を目標に掲げており、その成果として、令和3年12月の発表では、厚労省が定義する「健康寿命(介護保険の要支援1・2、要介護1までの年齢)」にて、男性1位、女性4位と上位に位置し、男性は「日本一」を達成した。その活動の一つとして、大分県が全国に先駆けて普及啓発している「短期集中予防サービス」がある。この事業は、生活行為に支障のある高齢者を対象に、専門職が3～6か月の短期間集中的に関わることで、その対象者の生活機能の向上、社会参加、地域での役割を持った自分らしい生活の再獲得を実現するものであり、まさに健康寿命を延伸させる取り組みそのものである。

一方、オムロン株式会社は、社会的課題の解決を通じた事業創造に取り組んでいる。現在、健康寿命の延伸を解決すべき社会的課題として捉え、テクノロジーを活用した高齢者の自立支援・介護予防に資する地域づくりに取り組んでいる。具体的には、高齢者の生活課題や阻害要因、栄養や口腔などの状態を適切に見極め、適切なサービス・地域資源に繋げることを支援する「自立支援型介護予防ケアマネジメント ICT」、短期集中予防サービスを提供するサービス提供事業所等にて、利用者のバイタル・運動強度管理や自宅でのセルフマネジメント見える化等を支援する「短期集中予防サービス支援 ICT」、更にはこれらの ICT によって得られたデータを活用したサービス・事業評価や地域課題抽出・施策形成による「データを活用した地域づくり支援」にも取り組んでいる。オムロンの取り組みの特徴は、自立支援のエキスパートの思考過程・ノウハウを形式知化し、ICT やアルゴリズム等に反映し、業務効率化・生産性向上だけでなく、自立支援に資する取り組みの質的支援を両立させること。また、ICT 等の提供だけでなく、人による伴走支援や地域専門職等と連携により、自立支援・介護予防の取り組みを持続可能な形で地域に仕組み化することに特徴を持つ。

本取り組みは、2020年7月～2024年3月まで、大分県にて実証事業を開始し、計16市町と、各市町の地域包括支援センターや短期集中予防サービスを提供する事業所の協力を得て、開発した ICT の効果検証を行ってきた。また、ICT 等で蓄積されたデータを活用し、短期集中予防サービスの介護予防効果の検証や、地域づくりへのデータ活用の可能性について検討を行った。本セミナーでは、大分県での実証事業の4年間の成果とともに、オムロンが目指す ICT を活用した自立支援に資する地域づくりへの「挑戦」についてご紹介をさせていただく。



経 歴

- 2010年3月 医療福祉工学部 卒業 学士(工学)
臨床工学技士 国家資格 取得
- 2012年3月 大学院 基礎工学研究科 博士前期課程 修了 修士(工学)
- 2012年4月 オムロンヘルスケア株式会社 商品開発統轄部 入社
以降、技術開発統括部へ異動し、技術・研究開発に従事
- 2014年10月 大学院 基礎工学研究科 博士後期課程 入学
- 2017年9月 大学院 基礎工学研究科 博士後期課程 終了 博士(工学)
- 2019年11月 オムロン株式会社 イノベーション推進本部 出向
以降、新規事業開発に従事
- 2021年11月 オムロン株式会社 イノベーション推進本部 転籍
- 2022年9月 オムロン株式会社 イノベーション推進本部 自立支援事業推進部
部長

資 格

1. 臨床工学技士
2. 第2種 ME 技術者
3. 普通自動車第一種運転免許
4. 基礎水泳指導員
5. 日本水泳連盟 競技役員
6. 日本水泳連盟 飛込競技審判 C 級

大分の強み！！ 大分県知事としてみた景色

広瀬 勝貞
前大分県知事

(1) 作業療法士との出会い

(2) 地域包括ケアシステム

令和4年10月現在、大分県は高齢化率が全国平均を大きく上回っています。これは、長生きしておられる方が多いということで、結構なことです。しかしながら、これは地域として見守りや支援、そして介護などのケアが必要になっていることも事実です。

介護保険が創設された当初“お世話型のサービス”が多くみられていました。サービスを利用する側として「転んでは歩けない」という意識のもと、日々日頃から歩かなくなり、買い物サービスや、入浴サービスに頼ってしまうようになり、楽であるけれども、むしろ身体的に弱ってくる、生活不活発病の方々が多くみられていました。結局、利用者は勿論、人手不足の介護施設も、コストアップの行政も困ってしまうこととなっていました。

そこで平成24年度から、埼玉県和光市にならい、全国に先駆け、大分県では地域包括ケアシステムを執り“自立支援型サービス”へ転換を行いました。そのために、医療・介護・生活支援・予防などの専門職が社会復帰、重度化予防を目指して対応を行うべく、全市町村での地域ケア会議の起ち上げに取り組み、生活機能の改善につながるケアプラン作成を推進してきました。

その効果も相まって、平成23年度の大分県の介護認定率は20.1%であり、全国平均(17.8%)と比較して、2.3%高かったものの、平成24年度以降は、年々下がり続け、平成27年度には、全国平均18.3%と並び、翌年度の28年度には18.0%となり、全国平均の18.0%を下回ることができました。その後も高齢化率は全国平均より高いものの、介護認定率は全国平均を下回り続けています。

更に、これに伴い、介護保険料も全国平均を下回るようになりました。平成24年から26年までの大分県の第5期介護保険料は5,351円だった。これは全国平均の4,972円より379円高く、前期4,155円(H21～H23)からの上昇率28.8%は全国ワースト1位でした。ところが、地域包括ケアシステムを全県的に推進した結果、平成27年から29までの第6期介護保険料は5,599円と4.6%上昇したものの、上昇率は全国で一番低い伸び率となりました。更に、平成30年から令和2年までの第7期保険料は5,790円となり、全国平均(5,869円)を下回ることとなりました。

このような大分県の“自立支援型ケアマネジメント”の取り組みは、要介護認定率及び介護保険料の上昇抑制につながったことから「大分県方式」として、全国から高い評価を受けるようになりました。

(3) “健康寿命日本一”への挑戦

更に、健康寿命日本一を目指して、大学や医師会など健康づくりの専門家に加え、経済団体や報道機関の力もいただき、平成28年6月に「健康寿命日本一おおい創造会議」を立ち上げ、健康づくりの取り組みを推進しました。大分県では、毎年10月を「みんなで伸ばそう健康寿命」推進月間に位置付け、9月～11月の3か月間に集中して健康づくりのイベントを開催してきました。また、

高齢者が体操や趣味の活動を行える「通いの場」づくりとして2,800カ所以上の整備を行い、その参加率は調査開始以来9年連続で日本一となっています。

また、健康づくりには、働き世代の健康づくりとして、企業の取り組みも重要となってきます。そこで従業員の健康管理に取り組む事業所を「健康経営事業所」として登録・認定を始め、令和5年12月末現在で2,400以上の事業所が登録するようになりました。

地域包括ケアは高齢者の元気づくりだと考えます。しかし、地域全体が元気になるためには、やはり老若問わず元気にやってもらう必要があるとも考えます。健康寿命は、老いも若きも、自分は健康で他人の手を借りないで暮らすことができているか、県全体の元気づくりにピタリの目標であると考えます。

その成果あって、令和1年12月の調査で、男性が全国1位と日本一を達成し、女性も全国4位と前回調査からよりから飛躍的に順位を伸ばすことができました。

(4) 日本一のおんせん県おおいた



略 歴

昭和41年3月 東京大学 法学部 卒業
昭和41年4月 通商産業省 入省
平成3年11月 内閣総理大臣 秘書官(宮沢喜一)
平成8年8月 通商産業省 官房長
平成11年9月 通商産業省 事務次官
平成13年1月 経済産業省 事務次官
平成14年7月 経済産業省 退官
平成15年4月～令和5年4月 大分県知事(5期)

趣 味

園芸

座右の銘

「心高身低(志は高く、身は低く)」

九州作業療法学会 2024 in 大分では、参加者が主体となる企画として『Innovation space』を用意しました。学会の一会場を利用し参加者が企画したイベントを実施します。

Innovation space ①

6月22日(土) 14:00～15:30

精神障害分野は測ろう！

申込者：福田 健一郎(専門作業療法士) 長崎精神科作業療法研究グループ(通称：皿うどん)
医療法人栄寿会 真珠園療養所

共同発表者：杉村 彰悟 (認定作業療法士) 長崎精神科作業療法研究グループ(通称：皿うどん)
医療法人仁祐会 小鳥居諫早病院

2022年の当学会での発表(杉村ら)によると、精神障害系の作業療法士は身体障害系の作業療法士に比べ、評価を実施していなかった。また、学術経験が少ない精神障害系作業療法士に限ると8割弱が評価を実施していなかった。別の報告では、評価にあたって客観的な評価尺度を用いていなかったという報告もある。

効果指標として「評価」はとても重要と思われ、「評価」を実施することは学術活動、すなわち精神科作業療法の効果の論証につながると思われる。そこで、今回は精神科作業療法で利用できる評価尺度をいくつか紹介および配布し、精神障害系に評価尺度使用の定着を図りたい。

Innovation space ②

6月22日(土) 16:00～17:30

学習療法[®]を学び、体験ができます！

申込者：藤井 麻紀(作業療法士) 社会福祉法人敬愛会 デイサービスセンターさざんか荘

認知症の方の脳機能維持や改善、または予防するための非薬物療法です。学習というイメージから正しく解く(間違えない)ことで、脳機能を高めると勘違いされている方が多いのが現実です。実は全く違うのです。脳科学の研究から分かっていることは、簡単な(8+3=)計算を素早く解いたり、文章を音読している時は、認知症の方でも脳全体が活性化した状態になることが分かりました。しかも長い時間取り組む必要もありません。それぞれで5～10分程度でよいのです。

脳画像や実際の学習者事例をご紹介します。参加された方には学習療法の学習体験もできます。ご質問にもお答えしたいと思います。ぜひ、多くの方のご参加をお待ちしております。

3D プリンターで作製した自助具を使った 退院後の地域生活者の課題発見と解決法について

申込者：川口 晋平(作業療法士) アイソトープ

アイソトープは、片手生活を送る方々の QOL 向上を目指して活動しています。脳卒中で麻痺が残ると ADL・IADL 動作が困難になりますが、適切な自助具の活用で動作が可能になります。しかし、片手用の自助具は種類が不足しています。そこで、作業療法士としての経験を活かし「3D プリンター×作業療法」により、片手でも利用できる自助具の開発に取り組んでいます。このプレゼンでは、片手生活者の課題、地域のニーズ及び解決方法を動画を交えて紹介します。皆様に課題を共有し、それらを解決できるセラピストが1人でも増えることを願っています。

当事者・療法士協働によるデザインと新製品のご紹介

共同発表者：笈沼 清紀 ケアウィル

株式会社ケアウィルの代表・笈沼と、これまでにケアウィルと共に福祉製品づくりに携わった大分・宮崎・長崎・福岡の作業療法士の OT が、ものづくりの軌跡、OT が福祉製品づくりに関わることの社会的意義と職業的価値、これまでの苦労話などをざっくばらんにお話しします。九州外の OT ともつなぎ、双方向で意見交換ができる場を設けます。また、今年はじめて自治体も加わり開発された『車いす利用者用レインウェア』やリウマチと片麻痺の患者さんの洗濯の自立を支援する『洗濯ネットバッグ』といった企業×地域 OT×対象者さんとのコラボレーションで生み出された製品を題材にしながら、対象者の皆さんの生の声も動画を使ってご紹介します。

MTDLP で実現する作業に焦点を当てた実践

友利 幸之介

東京工科大学

生活行為向上マネジメント(MTDLP)は作業療法実践において有益なツールであり、これまで協会や推進委員の先生がたのご尽力によって広く浸透してきた。ただ現場での日常的な活用という観点から見れば、まだまだ課題があるように思われる。そこで本講義では、MTDLPを日常業務で活用していくためにはどうすれば良いか、皆さんと一緒に考えてみたい。

1) MTDLP 本来の目的を考える

MTDLPには様々なシートが付帯し、国際生活機能分類(ICF)のコードに沿った書き方など細かいルールが規定されている。確かに作業療法共通のものさしを作るという目的においてマニュアル通りに実践することは重要になるが、MTDLPの本来の目的は、地域包括ケアシステムの構築に対して作業療法の専門性を通して貢献することである。作業療法の専門性とは、「人は作業を通して自分自身で健康になることができる」といった、対象者が自身の生活行為を見直し、健康を維持・拡大していけるようになるためのセルフマネジメントの促進である。MTDLPには、このセルフマネジメントに関する知識や技術を再実装する必要があると考えられる。

2) 計画通りに進まないことを許容する

作業に焦点を当てた実践に必要な要素には、以下の5つが含まれる。

- 1) 本人の健康維持拡大にとって重要で大切な作業を特定する
- 2) どうすればその作業が実現できるかを分析する
- 3) 実現可能な目標と行動計画を立てる
- 4) 目標の実現に向けて対象者と作業に取り組む
- 5) 作業が達成したかどうか判定する

ただし作業療法プロセスは流動的である。反復練習のような機能訓練の場合だと、ある程度予後予測に沿って進めていけるが、作業に焦点を当てた実践は、実際に作業を行ってみるまで分からないことが多々ある。計画通りにいかずに方針を修正したり、逆にちょっとした工夫で上手くいったりする、MTDLPには、この作業療法の臨機応変な対応と、シートを使って計画的に進めるという相反する2つが求められるところに若干の矛盾を感じるのは、おそらく私だけではないだろう。シートなどの柔軟な活用方法について再考する必要があるだろう。

他にもいくつか要因はあると思われるが、今回は以上2点から MTDLP を日常的に使用するための方法の考案を試みる。



略 歴

作業療法士、博士。

沖縄県宮古島出身。沖縄リハビリテーション福祉学院作業療法学科卒業後、長崎北病院、神奈川県立保健福祉大学等を経て、2017年より現職。2011年に臨床家と共に目標設定のためのアプリである ADOC を開発。現在、アプリを活用した国際協同研究、ビッグデータを用いたデータベース研究などを手がけている。日本臨床作業療法理事、日本作業療法士協会学術委員会副委員長、定義改定委員、学術誌作業療法編集委員を兼任。主な著書は、作業で創るエビデンス、作業で語る事例報告、作業で結ぶマネジメントなど。

著書・論文歴

1. Tomori, K, et al. (2019). Development of a Tablet Application for Collaborative Goal-setting in School-based Occupational Therapy: The Aid for Decision-Making in Occupation Choice for Schools (ADOC-S). Journal of Occupational Therapy, Schools, and Early Intervention
2. Tomori, K, et al. (2012) Utilization of the iPad application: Aid for Decision-making in Occupation Choice. Occupational Therapy International.
3. 友利幸之介, 京極 真, 竹林 崇 編: 作業で創るエビデンス. 作業療法士のための研究法の学びかた. 医学書院. 2019.

リーダー養成研修会

九州はひとつ！人がつながる士会活動を語ろう！！ ～作業療法に対する想いの先にあるもの～

○リーダー養成研修会とは

九州作業療法士会会長会は、九州の県士会会員の資質向上を図ることを目的として、学会や研修会などの企画運営を行っています。そのひとつであるリーダー養成研修会は2008年度より、コーチングスキルを高める研修からスタートし、大規模災害支援など、その時のニーズに合わせたテーマを取り入れた内容で、県士会や職場組織をリードする人材養成に取り組んで来ました。2021年度からは、年度後半に行われる研修会に加え、九州作業療法学会内においてもリーダー養成研修会企画を開催しています。

○大分学会でのリーダー養成研修会について

今回のリーダー養成研修会企画では、あらゆる世代の作業療法士の経験や想いを共有できる時間を用意しています。最初に講師より臨床で感じていること・考えていること(作業療法の楽しさ・やりがい・苦悩・お金・なりたいOT像・転職・県士会や協会の組織など)・節目になったことなどについてお話いただけます。その後に行うグループワークを通して、それぞれの作業療法への体験・経験や想いを共有し、幅広い価値観に触れ、参加された皆様が、“作業療法に対する想いの先にあるもの”について考える機会になればと考えています。

日本作業療法協会は、「生涯教育制度を活用した、作業療法士のキャリア形成の支援」として、研修会等を花に見立て、その花を摘んで花瓶に入れることで、キャリアを形成していくモデルを作成しています。本企画に参加して、あなたの花瓶に新たな花を一輪加えてみませんか？

〈講師紹介〉

講師：今田 達也 氏(WingArc1st株式会社/沖縄県作業療法士会)

認定作業療法士、沖縄県作業療法士会 学術部担当理事

略歴：千葉県出身、京都大学大学院 医学研究科卒

精神科訪問クリニック、精神科病院、就労支援施設を経て、現在は一般企業(IT企業)の障害者雇用担当として勤務。

○さいごに

「リーダー養成」という言葉に、とっつき難さや堅さ、または面倒くさいイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか？ただ、皆さんそれぞれに経験年数を重ねていく中で、必ずチームや組織のリーダー的役割を担う時があると思います。そんな時に慌てずに対処できる、あるいは積極的に動くことができる、楽しく役割を果たすことができる、この「できる」を皆さんと一緒に創り上げていけるような研修会にしていきたいと考えています。「作業療法に対する想いの先にあるもの」を考えていく中で、皆さまそれぞれが、各々のリーダー像を思い描く機会にさせていただけると幸いです。

一般演題 プログラム

※「☆印」は経験年数1～3年目のフレッシュマンです。

一般演題

優秀演題発表 6月22日(土) 16:15～17:15

第1会場(大ホール)

座長：佐藤 孝臣(九州作業療法学会2024in大分 学会長、株式会社 ライフリー)

- SS-1** くも膜下出血により記憶障害と病識の欠如を主とした高次脳機能障害を呈した症例
～母親としての役割再獲得に向けたノートとLINEでの家族支援～
梶山 理予子 社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター
- ☆ **SS-2** 病室に閉じこもり傾向の軽度認知症患者に対する活動の質評価法を用いた介入
～安心した集団参加を目指して～
後藤 萌 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院
- SS-3** 地域の育児期夫婦を対象とした『ライフスタイル再構築プログラム』の取り組み
～第一報～
帯刀 麻衣 いいしよわ倶楽部 -OitaSocialOTProject-
特定医療法人社団春日会 黒木記念病院
- SS-4** 幼保小の架け橋プログラム事業において
～教育現場における作業療法士の可能性～
兒玉 敬祐 医療法人光心会 どんぐりの杜クリニック
- SS-5** がん患者の心理社会的側面に対してデジタル回想コラージュを用いた一事例
坂口 聡子 広島大学大学院 医系科学研究科

口述発表1 6月22日(土) 12:00～13:00

第3会場(302会議室)

[地域①]

座長：田中 聡((株)リライブ)

- O-1** 地域ケア会議における作業療法士の多職種に向けた助言の質の向上に向けた
アンケート調査
橋口 信洋 鹿児島第一医療リハビリ専門学校
- O-2** 通所型サービスCにおける年代別による効果検証と今後への期待
後藤 伸太 社会医療法人財団天心堂 へつぎ病院
- O-3** 入浴動作の再獲得により意欲が向上し、生活拡大に繋がった一例
矢野 あやね 医療法人夢結 良創夢デイサービスセンター
- O-4** 年一回の認知症予防講話が予防行動に与える影響
坪田 優一 医療法人社団英仁会 愛野ありあけ病院
- O-5** 非常時の支援者支援
～支援者が力を発揮するために意識したこと～
本部 葉 特定医療法人富尾会 桜が丘病院
訪問看護ステーション らいふ

[運動器疾患]

座長：杉木 知武(川島整形外科病院)

- O-6** 当院の腱板断裂術後患者における遷延性術後痛と術後6カ月の臨床成績に与える影響
渡邊 美結 産業医科大学若松病院
- O-7** 当院大腿骨頸部骨折患者におけるプロトコール導入後の効果判定
大城 篤史 一般財団法人平成紫川会 小倉記念病院 リハビリテーション課
- O-8** 認知症高齢者の絵カード評価法(APCD)と作業選択意思決定支援ソフト(ADOC)利用により意味のある作業が活動性の向上に繋がった一事例
—作業機能障害に焦点を当てて—
田代 裕太 地方独立行政法人佐賀県医療センター好生館 リハビリテーションセンター
- O-9** しびれ同調経皮的電気神経刺激を行い
右手のしびれ感を含む神経障害性疼痛の緩和が得られた上肢末梢神経障害の一例
豊栄 峻 鹿児島大学病院 リハビリテーション部
鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 リハビリテーション医学
- O-10** 肘関節不安定症を伴う肘関節脱臼骨折術後の術後療法における
タウメル継手装具の効果検討
窪 昌和 恒心会おぐら病院 リハビリテーション部

[高次脳機能障害]

座長：鳥越 克志(藤華医療技術専門学校)

- O-11** 左半球脳梗塞により道具の使用障害を呈した症例への入浴、
調理自立へのアプローチ
—絵カードを用いたエラーレス学習が有用であった一例—
戸高 綾 社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター
- O-12** 神経膠芽腫摘出術後の左半側空間無視に対するプリズム順応課題の併用が
奏功した一症例
吉瀬 陽 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
- ☆ **O-13** 左半側空間無視を呈する患者に対し
左方への意識づけを行うことで更衣動作が改善した一症例
岩田 彩葉 特定医療法人社団春日会 黒木記念病院
- O-14** 脳梗塞後片麻痺と半側空間無視を呈した症例に対して COPM を用いて介入した一例
—随意運動介助型電気刺激装置を併用したアプローチの試み—
田中 誠大 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院

O-15 高次脳機能障害を呈し調理動作に困難さを生じていた症例に対する
セルフアウェアネスに着目した一介入

花村 愛海 医療法人山部会 くまもと成城病院

口述発表4 6月22日(土) 13:45～14:45

第3会場(302会議室)

[脳血管疾患①]

座長：光永 済(長崎大学病院)

O-16 回復期リハビリテーション病棟の在院日数は
退院患者の屋内での手段的日常生活動作への早期復帰に影響する

田中 龍太郎 社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

O-17 急性期病院での自動車運転再開支援の取り組み
—もやもや病術後の1症例の検討

吉田 康太郎 鹿児島大学病院 リハビリテーション部

☆ **O-18** 動作手順を統一し、言語化を図った事で前開きシャツの介助量軽減に繋がった一例

上山 翔 医療法人菊野会 菊野病院

O-19 重度運動失調を呈した症例との在宅復帰に向けた協業の5ヵ月間

平山 里央 医療法人回生会 リハビリテーションセンター熊本回生会病院

☆ **O-20** 偽性アテトーゼにより利き手操作が困難となった脊髄炎患者に対して
ADL・IADLへの汎用を目的とした作業療法の工夫

荒上 秀平 産業医科大学病院

口述発表5 6月22日(土) 13:45～14:45

第4会場(303会議室)

[内部障害]

座長：真田 康孝(コスモス病院)

O-21 療養病棟入院中の終末期の特発性肺線維症患者に対して
「意味のある作業」がセルフケアに好影響を及ぼした一症例

阿部 真也 医療法人 大分記念病院

O-22 生体肺移植患者に対して日常生活動作時の呼吸・動作指導を行い
在宅復帰が可能となった1例

上田 悠豊 国立大学法人 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部

O-23 高用量ステロイド投与下における心臓サルコイドーシス症例の身体機能の変化

帆足 友希 国立大学法人 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部

☆ **O-24** デマンドと評価を考慮して目標設定をする大切さを学んだ事例

戸高 那奈美 社会医療法人財団 天心堂へつぎ病院 リハビリテーション課

O-25 奇跡をおこす，家に帰りたいと願うリハビリに励んだ11か月
～患者を通して学んだこと～

坂本 果奈 社会医療法人財団 天心堂へつぎ病院

口述発表6 6月22日(土) 13:45～14:45

第5会場(201・202会議室)

[教育]

座長：渕野 浩二(熊本総合医療リハビリテーション学院)

O-26 臨床実習におけるMTDLP活用の現状と推進のための方略
～実習指導者へのアンケート調査から～

熊谷 隆史 医療福祉専門学校 緑生館 作業療法学科

O-27 臨床技能向上に繋がる治療演習科目に向けて
～評価実習前・後OSCEと実習成績との比較を通して～

佐藤 翼 平松学園 大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科

O-28 臨床実習における対象者の介入経験と学内カリキュラムとの関連
～学生へのアンケート調査からみえた課題～

彌田 剛 学校法人後藤学園 藤華医療技術専門学校

O-29 臨床実習におけるリスク管理
～臨床実習指導者講習が与える実習環境について～

日隈 武治 学校法人平松学園 大分リハビリテーション専門学校

O-30 臨床実践に即した脳血管障害の作業療法教育を目指して
～症例報告書を対象としたテキストマイニング分析～

矢野 高正 大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科

口述発表7 6月22日(土) 15:00～16:00

第3会場(302会議室)

[地域②]

座長：田村 浩介(いきがいのまちデイサービス美里)

O-31 通所リハビリ・訪問リハビリが環境調整に与える影響について

三ノ宮 悠里 社会医療法人敬和会 大分リハビリテーション病院
在宅支援部通所リハビリテーション事業所

O-32 長崎県大村市の介護予防教室で適正飲酒についての講話を導入して
～報告及び今後の展望～

前田 大輝 医療法人見松会 あきやま病院

O-33 リハビリテーション会議を通じた意識変容により本人が主体性を獲得できた事例

川口 香穂里 医療法人進修会 デイケア中島

O-34 地域在住高齢者に対するフレイル予防に向けて
～転倒歴と転倒への不安の影響について～
篠原 美穂 杵築市立山香病院 リハビリテーション科

O-35 訪問 C 事業に求められる OT の役割と強み
新里 光 医療法人おもと会 大浜第一病院

口述発表 8 6月22日(土) 15:00～16:00

第4会場(303会議室)

[精神障害]

座長：山下 瞳(大分大学医学部附属病院)

O-36 慢性期うつ病患者に対する
ストレス緩和と休息に焦点をおいた作業療法活動(ヒーリング)の実施
藤崎 みなみ 特定医療法人富尾会 桜が丘病院

O-37 青年・成人感覚プロフィール(AASP)を用いた支援計画の実践と
情報の有用性についての調査
吉岡 恭介 大分県精神科リハビリテーション研究会

O-38 クロザリル治療が及ぼす作業療法参加数と内容の変化
安部 俊輔 大分丘の上病院

☆ **O-39** 不安により動作緩慢さが増悪する為、精神療法を行った症例
松本 慧 医療法人財団華林会 村上華林堂病院

O-40 作業がもたらす心の変化を可視化する試み
松本 信雄 医療法人社団緑風会 水戸病院 デイケアみのり

口述発表 9 6月22日(土) 15:00～16:00

第5会場(201・202会議室)

[県士会セッション①]

座長：藤原 一(藤華医療技術専門学校)

O-41 福岡県作業療法協会の取り組み
～作業療法士の認知度向上・市町村事業への参画・組織率向上～
濱本 孝弘 公益社団法人 福岡県作業療法協会
社会福祉法人慈愛会 医療福祉センター聖ヨゼフ園

O-42 宮崎県作業療法士会学術部の次世代に繋ぐ組織づくりについて
中田 富久 一般社団法人 宮崎県作業療法士会
株式会社 OUR

O-43 長崎県作業療法士会の新たな挑戦
～共感と創造性を重視したイノベーションの構築～
福島 浩満 一般社団法人 長崎県作業療法士会
学校法人玉木学園 長崎医療技術専門学校

O-44 鹿児島県作業療法士協会の新たな取り組み
～会員ニーズに合わせた活動の実践～

西 綾

一般社団法人 鹿児島県作業療法士協会
株式会社 輝く羽

口述発表 10 6月22日(土) 16:15～17:15

第3会場(302会議室)

[脳血管疾患②]

座長：豊栄 峻(鹿児島大学病院)

☆ **O-45** 療養病棟に勤務する OT が入院中ラクナ梗塞を発症した患者を経験し学んだこと

濱田 喜文

医療法人ライフサポート 明和記念病院

O-46 重度片麻痺患者に対し HAL-SJ を使用した介入経験

佐々木 駿太郎

社会医療法人敬和会 大分リハビリテーション病院

O-47 脊髄梗塞を呈した1例

～治療的および機能的電気刺激の利用を併用した事で機能改善を認めた1例

内藤 拓夢

社会医療法人青洲会 福岡青洲会病院

O-48 発症3か月でボツリヌス療法を実施し、機能改善に至った一症例

丸山 陽香

社会福祉法人柏芳会 田川新生病院

O-49 回復期リハビリテーション病棟脳卒中者が呈する睡眠障害(不眠症)に対し、
起立運動は好影響を与える

枅崎 高史

社会医療法人令和会 熊本リハビリテーション病院

O-50 脳卒中患者の麻痺側上肢に対する持続的電気刺激を併用した物品操作練習の効果
～2事例への導入を通して～

三宮 真琴

杵築市立山香病院

口述発表 11 6月22日(土) 16:15～17:15

第4会場(303会議室)

[高齢期]

座長：前田 憲志(服巻医院)

O-51 見える化による“元気”への一歩
～事業所 ICT を活用した当事業所での取り組み～

宇都宮 茉南

株式会社ライフリー デイサービス楽 二目川センター

O-52 高齢ドライバに対する安全運転支援
～短時間通所リハビリテーションでの5年間の取り組み～

岸本 周作

医療法人畏敬会 井野辺病院 総合リハビリテーションセンター

O-53 ロコモティブシンドローム例の身体機能の特徴と転倒との関連について

松尾 博文

医療法人 大宮医院

O-54 終日離床中の高自立度棟における仙尾骨褥瘡発症事例の治癒と
転倒防止による在宅復帰の成果
—高齢者ケアにおける褥瘡と転倒への意識向上と多職種連携の重要性—
川田 隆士 介護老人保健施設 サンファミリー

O-55 高齢者における TUG 変化率と相互作用要因を考慮した転倒発生予測因子の検討
—後ろ向きコホート研究—
河野 真太郎 医療法人社団仁泉会 メディケア別府

☆ **O-56** 観察評価に基づく活動支援が生活に与える影響について
～A-QOA を活用した事例報告～
谷川 史恵 社会医療法人敬和会 大分豊寿苑

口述発表 12 6月23日(日) 9:30～10:30

第3会場(302会議室)

[発達障害]

座長：永松 謙一(博愛病院)

O-57 幼少期からの振り返りから自己認識の高まりがみられた事例
～中学進学を控えた男児が自身の特性の理解に至るまで～
尾鷲 百佳子 医療福祉専門学校 緑生館 作業療法学科

O-58 片麻痺の脳性麻痺児に対する修正 CI 療法を用いた取り組み
—3症例のケースシリーズ—
竹下 晃 独立行政法人国立病院機構 南九州病院

O-59 使用場面の少ない麻痺手に対して、
成功体験を促したことにより日常での参加場面が増えた児の一例
山本 大地 医療法人菊野会 菊野病院

O-60 超低出生体重児で発達が遅延する要因の中で歩行獲得に至った先天性食道閉鎖症児
安東 拓美 独立行政法人国立病院機構 小倉医療センター

O-61 片づけに困難さをもつ小学校普通教室に在籍する児童に対する保護者支援
檀 拓真 医療法人 泌尿器科皮膚科 上野医院 子ども未来サポートルーム EL

口述発表 13 6月23日(日) 9:30～10:30

第4会場(303会議室)

[認知機能障害]

座長：平野 政治(明和記念病院)

O-62 集団脳トレ
MMSE 項目を二重課題として取り入れたトレーニング効果
武藤 絵里 株式会社 桜十字 Let's リハ! 熊本北店

- ☆ O-63 重度認知症者の自律支援の検討
～本人の物語からニーズを捉え、意思疎通や ADL に改善が認められた例～

田尻 起一郎 株式会社シンパクト ケアサポートメロン3R
株式会社シンパクト ケアサポートメロン

- O-64 コミュニケーションロボットによる重度認知症患者への介入
～活動の質に着目して～

増田 達也 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院

- O-65 簡易認知機能検査としての時計描画テストの有用性

西隈 亮 医療法人社団正信会 水戸病院

- O-66 日常生活の癖を発見した事で姿勢異常の改善に繋がった
パーキンソン病性認知症の1例

早坂 昇平 医療法人見松会 あきやま病院

口述発表 14 6月23日(日) 9:30～10:30

第5会場(201・202会議室)

[県士会セッション②]

座長：佐藤 暁(井野辺病院)

- O-67 沖縄県作業療法士会による市町村支援の現在と今後の展望

長濱 裕樹 一般社団法人 沖縄県作業療法士会
医療法人 下地診療所 アルケーのクラセー那覇

- O-68 (一社)熊本県作業療法士会の運転再開支援の取り組み
～「高次脳機能障害者の自動車運転再開に向けた実車評価に関する実施要領」の
作成について～

今田 吉彦 一般社団法人 熊本県作業療法士会
社会医療法人 熊本機能病院

- O-69 佐賀県在宅生活サポートセンターでの
佐賀県作業療法士会による生活支援相談や介護講座の対応について

佐古 英樹 一般社団法人 佐賀県作業療法士会
佐賀リハビリテーション病院

- O-70 「おおいた心と体の職場環境改善アドバイザー」派遣事業
～大分県南部支部圏域での取り組み～

品矢 浩太 公益社団法人 大分県作業療法協会
地域医療機能推進機構 南海医療センター

口述発表 15 6月23日(日) 11:00～12:00

第3会場(302会議室)

[基礎・理論・管理]

座長：浅倉 秀剛(大分中村病院)

- O-71 関節角度における骨格筋の働きの変化

鳥越 克志 藤華医療技術専門学校

- O-72** 高齢者の歩行能力に関する精神・心理面の要因検証
～HDS-RとKohs Blocking Design testに着目した重回帰分析とカットオフ値の算出～
板井 幸太 学校法人藤川学園 福岡リハビリテーション専門学校
- O-73** 沖縄県作業療法学会を活用した組織力強化の取り組み
喜納 俊介 社会医療法人敬愛会 中頭病院 リハビリテーション部
- O-74** 当院における自然災害時業務継続計画（BCP）策定に向けた作業療法士の関わり
桑原 知泰 医療法人 信愛整形外科医院
- ☆ **O-75** 作業の背景に焦点をあてた取り組み
～過去のBeingを達成した事例～
岩佐 俊瑠 社会医療法人敬和会 大分豊寿苑

口述発表 16 6月23日（日） 11:00～12:00

第4会場（303会議室）

[MTDLP]

座長：渡邊 考蔵（藤元総合病院）

- O-76** MTDLPを通して対象者・家族と目標共有し
ポータブルトイレでの排泄動作獲得に至った事例
日高 怜美 医療法人相生会 福岡みらい病院
- O-77** 急性期病棟から地域包括ケア病棟への転棟時の情報共有における
生活行為向上マネジメントの有効性
柴田 さおり 医療法人財団華林会 村上華林堂病院
- O-78** 自分らしく生きる表現への挑戦
—急性期から「MTDLP」と「モノづくり」を介して作業療法を実践した多発骨折事例—
塚本 倫央 独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院
- O-79** 腰部痛が強い急性期の腰椎化膿性脊椎炎事例に対し MTDLP を活用した症例
～多職種と連携し不安なく食事動作獲得ができるように～
長濱 愛菜 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院
- O-80** 復職を見据え、自宅復帰に向けて介入を行った症例
～急性期のMTDLPを引き継ぎ、回り八及び退院後のフォローアップへ～
栗山 実乃里 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院
- O-81** 巻き込み事故で両手が使用できず落胆していた症例に対し、
症例が望む生活の再獲得に向けて MTDLP を活用した事例
久保田 智博 独立行政法人労働者健康安全機構 長崎労災病院

ポスター発表

ポスター1 6月22日(土) 14:00～15:00

第6会場(小ホール)

- P-1** 腱板断裂術後の遷延性術後痛と個人因子, 疼痛関連因子, 術前心身機能の関連
伊東 育未 産業医科大学 若松病院
- ☆ **P-2** 自分を見つめなおして
ーリスク管理, 自主訓練の定着に向けてー
阿部 一樹 特定医療法人社団春日会 黒木記念病院
- P-3** 表面置換型人工関節置換術を施行された小指ブシャール結節1例の治療経験
坂本 竜弥 医療法人伴師会 愛野記念病院 手外科センター
- P-4** 全盲を有する糖尿病足病変患者に対し,
早期作業療法介入を行ったことで再発予防につながった症例
重藤 ひかる 社会医療法人敬和会 大分岡病院
- P-5** 中枢神経系疾患を伴う対象者に対する手指の屈曲伸展反復運動時の
表面筋電図測定の実行可能性の検討
藤本 皓也 医療法人玉昌会 加治木温泉病院 総合リハビリテーションセンター
- P-6** 若年脳卒中後遺症者の地域移行に向けた取り組み
～障害者支援施設の役割～
笹原 紀子 社会福祉法人農協共済別府リハビリテーションセンター 障害者支援施設にじ
- P-7** 整容動作改善に向けた
頭蓋形成術待機中の患者に対する高次脳機能へアプローチした1例
竹市 翔 都城市郡医師会病院 リハビリテーション科
- P-8** 重量感覚に着目した認知神経リハビリテーションの実施
秋吉 潤弥 特定医療法人明徳会 佐藤第一病院
- P-9** 臨床における課題指向型訓練の実践
ーOJTに基づく上肢機能チームの活動ー
高良 春花 博仁会 福岡リハビリテーション病院
- ☆ **P-10** 作業遂行評価が困難な上肢麻痺の事例に対する
機能レベルに応じた段階的な介入の実践報告
西田 裕志 医療法人博仁会 福岡リハビリテーション病院
- ☆ **P-11** 生活リハビリにより排泄処理動作が定着し自己肯定感の向上が見られた症例
久保 佑亮 医療法人財団華林会 村上華林堂病院

- P-12** 当院で初めての筋電電動義手リハビリテーションの実践と
追跡調査から見えてきた今後の課題
中島 慎介 国立大学法人 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部
- P-13** 当院における Dupuytren 拘縮に対するスプリント療法と術後成績について
川端 賢治 社会医療法人玄真堂 川鷹整形外科病院
- P-14** pillar pain に対する, ハンドスプリントの効果
村上 義樹 医療法人健手会 ほしの整形外科クリニック
- ☆ **P-15** 安心して独居生活を過ごす為の IADL を選定する重要性
～地域包括ケア病棟での経験を通じて～
柳川 辰徳 医療法人 大分記念病院
- P-16** 作業療法士による高度救命救急センターでの
早期離床・リハビリテーション加算取得における報告と役割の検討
佐藤 優 国立大学法人 大分大学医学部附属病院 リハビリテーション部
- P-17** 終末期がん患者に対して COPM を用いた作業療法介入により
生きがいの再獲得に繋がった事例
杉岡 駿 社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院
- P-18** 疼痛および易骨折性を呈する多発性骨髄腫患者が多職種連携により
自宅退院を実現した一例
山下 陽子 久留米大学病院 リハビリテーション部
- ☆ **P-19** 急性冠症候群の再発・心不全発症の予防に向けての患者教育を通して
意識変容がみられた症例
高山 和佳奈 公益社団法人福岡医療団 千鳥橋病院
- P-20** 当院における多職種連携に対する意識度に関するアンケート調査
高瀬 良太 大分大学医学部附属病院
- P-21** 臨床実習指導における MTDLP の有用性
東原 太一郎 社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院
- P-22** ピア・サポート学習が学習意欲と学級集団の発達にもたらす影響
首藤 小春 平松学園 大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科

- P-23** 認知症地域支援・ケア向上モデル事業「出前カフェ」への取り組み
 荒木 良夫 藤華医療技術専門学校
- P-24** 通所リハビリテーション営業中の地震発生を想定した避難訓練の取り組み
 ～災害への対応力強化に向けて～
 芦刈 一也 JCHO 湯布院病院附属 居宅介護支援センター
- P-25** 認知症家族支援事業への参加により主介護者の介護負担感が軽減にした事例
 矢野 豊久 訪問看護ステーションめいわ
- P-26** 地域のチカラを育もう
 ～地域支援事業における作業療法士の役割～
 吉嶺 綾乃 医療法人おもと会 デイケアセンターあめくの杜
 医療法人おもと会 大浜第一病院
 沖縄県作業療法士会
- P-27** その人の住まいで暮らしを考える
 松田 美咲 医療法人 大分記念病院
- P-28** 通所リハ利用者における歩数変化量と生活機能の関連性について
 都留 茉弓 医療法人社団仁泉会 介護老人保健施設メディケア別府
- P-29** 活動・参加への支援で望まれていること
 ～生活機能の維持を考える～
 後藤 英子 学校法人平松学園 大分リハビリテーション専門学校 作業療法士科
- ☆ **P-30** チーム最高齢！これからもグランドゴルフ頑張ります
 ～入院時より市外の通所短期集中予防サービスへの情報提供を行い
 趣味を再開できた事例～
 仙波 優花 臼杵市医師会立 コスモス病院
- P-31** 園芸療法・園芸福祉の普及を目指した社会連携活動における
 作業療法士の役割と強み
 小石 鉄兵 平松学園 大分短期大学 園芸科
 早稲田大学先端社会科学研究所
- P-32** 大分県杵築市における認知症初期集中支援チームの実践報告
 ～2015年から2023年を振り返って～
 佐藤 陽彦 杵築市立山香病院
- P-33** 地域住民への介護予防事業における介入
 ～転倒の有無・転倒不安感に着目して～
 高崎 美咲 医療法人社団仁泉会 畑病院

- P-34** 急性期での生活行為向上マネジメントの活用が有効であった一症例
練木 未来 特定医療法人明徳会 佐藤第一病院
- P-35** ホルモンバランスの崩れによる意欲低下に MTDLP を用いた症例
～超急性期からの OT としての関わり～
川井 穂香 一般社団法人巨樹の会 新武雄病院
- P-36** MTDLP の活用が退院後の在宅生活の見通しの希薄化や能力の認識を改善させ、
自宅退院に至った症例
柿迫 直樹 医療法人青仁会 池田病院
- P-37** ゲートボール参加に向けた取り組みが、
作業に対する動機付けやパターンと自己肯定感に与えた影響について
～通所リハビリテーションにおける MTDLP の実践報告～
宮城 志郎 医療法人徳洲会 南部徳洲会病院 通所リハビリテーション事業所
- P-38** 通所リハビリテーションにおける送迎業務を活用した活動・参加の支援
～家族支援での屋外散歩を再開できた症例～
濱田 俊彦 社会医療法人寿量会 介護老人保健施設 清雅苑
- P-39** 回復期リハビリテーション病棟での生活行為向上マネジメント活用の重要性
～右大腿骨頸上骨折を呈し、施設退院予定であったが自宅退院できた事例～
山崎 翔太 医療法人社団唱和会 明野中央病院
- P-40** MTDLP の活用により、自宅退院後に主体的な生活を取り戻した一事例
浜辺 未果 糸島医師会病院
- P-41** 精神科スーパー救急病棟の集団作業療法プログラム参加要因について
～興味関心チェックリストを用いた検証～
竹谷 健太郎 医療法人社団豊永会 飯塚記念病院
- ☆ **P-42** 暴力・威圧的行動のある患者さんへの個人作業療法
～自信の無さからの脱却～
武生 光陽 医療法人哲世会 鶴見台病院
- P-43** 精神科作業療法における心身機能へのアプローチ
小グループを用いたミニダイエット
牛嶋 祐希 医療法人哲世会 鶴見台病院
- P-44** 断酒を目的としたアルコールリハビリテーションプログラム(ARP)治療を開始して
～当院アルコール依存症入院患者の現状と今後の課題～
松井 隆太 有働会 有働病院

- P-45** 協働的目標設定に難渋した急性期脳梗塞症例に対し、
カナダ作業遂行測定(COPM)の活用によって目標設定が円滑となった経験の報告
牧井 彩香 公立学校共済組合 九州中央病院
- P-46** Paper版 ADOC・ADOC-Hを使用した目標設定と問題解決技法の指導により、ADL
場面での麻痺手の使用頻度と動作の質の向上が認められた
急性期脳卒中患者の事例
山田 慎太郎 知心会 一ノ宮脳神経外科病院
- P-47** 多系統萎縮症症例に対し共有意思決定に基づく関わりにより
意思伝達装置導入に至った一例
自見 美菜 医療法人杏林会 村上記念病院
- P-48** 演題取り下げ
- P-49** 目標設定において作業療法との認識の差が修正され
園芸活動への意欲が向上した症例
金城 駿斗 医療法人夢結 良創夢リハビリテーションセンター
- P-50** 高齢頸髄損傷症例に対して細かな環境調整と目標の再設定を通して
生活機能の向上を認めた1例
松木 和歩 医療法人平成会 サンライズ酒井病院
- ☆ **P-51** 安静臥床により BPSD を引き起こした症例
～グループ回想法を用いて～
木下 椋太 医療法人社団東洋会 池田病院
- P-52** 報酬を用いることで展望記憶の補填が可能となり約束が守れるようになった一症例
有川 未紗 公益財団法人健和会 大手町リハビリテーション病院
- P-53** 半側空間無視と構成障害を有し、着衣障害を呈した症例への介入
～前開きシャツの更衣の獲得～
原口 笑奈 社会医療法人寿量会 熊本機能病院
- P-54** 3D プリンターによる杖フック製作の試み
～運搬動作に杖フックを活用した1例～
川俣 陽圭 独立行政法人地域医療機能推進機構 宮崎江南病院
- P-55** 司法領域への介入に向けた取り組み
～少年院との関わりを通して～
甲斐 裕介 藤華医療技術専門学校

- P-56** 前大脳動脈領域の梗塞患者に対して急性期から HAL[®]医療用単関節タイプを使用し即時効果を認めた一症例
池田 隆太 社会医療法人天神会 新古賀病院
- P-57** 脳卒中後麻痺側上肢の不使用を呈した症例に対して Portable Spring Balancer を用いた介入効果
相川 瑞希 桜十字福岡病院
桜十字福岡病院 桜十字先端リハビリテーションセンター SACRA
- P-58** 肘関節伸展装具装着下での非麻痺側上肢の前方リーチ動作へ及ぼす影響について
銚之原 将希 医療法人福岡桜十字 桜十字福岡病院
- P-59** 大分県内の作業療法士による自動車運転及び移動支援の実態
佐藤 友美 公益社団法人 大分県作業療法協会
JCHO 湯布院病院
- ☆ **P-60** 重度要介護を必要とする患者の在宅復帰支援
～ノーマライゼーションを通して～
廣石 直樹 医療法人芝蘭会 今村病院
- P-61** 運転時認知障害早期発見チェックリスト30からみる高齢者の不安と自信
—埼玉県の調査との比較—
三岳 直也 学校法人玉木学園 長崎医療技術専門学校
- P-62** 下肢筋力の変化が立位時重心動揺に及ぼす影響
塩月 繁 藤華医療技術専門学校
- P-63** 速歩と通常歩行の交互ウォーキングが女子学生の心身機能にもたらす影響
猪野 由美子 学校法人後藤学園 藤華医療技術専門学校
- P-64** クモ膜下出血による記憶障害を呈した患者における外来作業療法での関わり
～多職種連携を図り社会生活再獲得に向けて介入した症例～
林 千愛 医療法人光仁会 西田病院
- P-65** 入院3日目に発症した過活動型せん妄に対して、
多職種連携にて遷延化を防ぎ自宅退院が可能となった一症例
伊藤 雅史 社会医療法人大成会 福岡記念病院 リハビリテーション科
- P-66** 失語症を呈した症例に対して家族との情報共有の手段に LINE を活用し
スムーズな退院支援が可能であった一例
高倉 沙樹 社会福祉法人農協共済 別府リハビリテーションセンター

A series of horizontal dashed lines for writing.

九州作業療法学会 組織図

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
三 役	学 会 長	佐藤 孝臣	株式会社 ライフリー
	副 学 会 長	高森 聖人	一般社団法人 虹色
	副 学 会 長	日隈 武治	大分リハビリテーション専門学校
	準備委員長	藤原 肇	藤華医療技術専門学校
	副準備委員長	児玉 隆典	デイサービス楽 二目川センター
学 術 局	学 術 局 長	佐藤 暁	井野辺病院
	企 画 部 長	村田 健太	湯布院病院
	部 員	梅木 大輔	湯布院病院
		平山 玲美	コスモス病院
	査 読 部 長	佐藤 優	大分大学医学部附属病院
	部 員	高瀬 良太	大分大学医学部附属病院
		中島 慎介	大分大学医学部附属病院
		帆足 友希	大分大学医学部附属病院
		上田 悠豊	大分大学医学部附属病院
	編 集 部 長	伊東 竜太郎	鶴見台病院
運 営 局	運 営 局 長	矢野 高正	大分リハビリテーション専門学校
	会場運営部長	真田 康孝	臼杵医師会立コスモス病院
	会場運営副部長	大野 哲也	大分リハビリテーション病院
	通 信 部 長	佐藤 翼	大分リハビリテーション専門学校
	通信副部長	定村 直子	佐藤第一病院

	役 職	氏名(敬称略)	勤 務 先
運 営 局	部 員	阿部 一樹	黒木記念病院
		阿部 遼	むさし整形外科医院
		白井 大夢	帰巖会みえ病院
		小関 渚亜	黒木記念病院
		笠置 京五	国東市民病院
		桑原 和音	大分リハビリテーション病院
		後藤 雅貴	リハジョイント大分
		首藤 結	大分リハビリテーション病院
		佐々木 駿太郎	大分リハビリテーション病院
		中野 宏規	大分リハビリテーション病院
		下鳥 愛	諏訪の杜病院
		佐藤 大地	天心堂へつぎ病院
		徳尾 美香	帰巖会みえ病院
		戸高 綾	農協共済別府リハビリテーションセンター
		後藤 蒼也	今村病院
		松田 素幸	タキオ保養院
山田 晃大	黒木記念病院		
山本 貴美	湯布院病院		
事 務 局	事 務 局 長	小合瀬 健志	明和記念病院
	総 務 部 長	矢野 秀実	特別養護老人ホーム長良苑
	部 員	仙波 優花	コスモス病院
		梅木 あすか	中村病院
	財 務 部 長	河野 奈緒美	大分リハビリテーション病院
	部 員	榎本 拓也	大分リハビリテーション病院
	広 報 部 長	鳥越 克志	藤華医療技術専門学校
	広報副部長	高崎 美咲	メディケア別府
	部 員	首藤 宏介	Green ガーデンアトリオ高江
		宮成 萌華	介護老人保健施設 大分豊寿苑
レセプション担当	平山 聖美	大分県作業療法協会 事務局	
託児担当	兒玉 敬祐	どんぐりの杜クリニック	

協賛・広告企業一覧(順不同)

■学会誌広告

学校法人 平松学園 大分リハビリテーション専門学校

学校法人 後藤学園 藤華医療技術専門学校

株式会社 有菌製作所

株式会社 ライフリー

一般社団法人 虹色

株式会社 ケアウィル

■ホームページバナー

株式会社 ケアウィル

後援団体一覧(順不同)

大分県

大分市

一般社団法人 大分県医師会

一般社団法人 大分県歯科医師会

公益社団法人 大分県看護協会

公益社団法人 大分県薬剤師会

公益社団法人 大分県理学療法士協会

公益社団法人 大分県言語聴覚士協会

一般社団法人 大分県精神科病院協会

特定非営利活動法人 大分県介護支援専門員協会

公益社団法人 大分県老人保健施設協会

大分県精神保健福祉士協会

一般社団法人 大分県介護福祉士会

一般社団法人 大分県病院協会

一般社団法人 日本作業療法士協会

日本作業療法士連盟

大分県リハビリテーション支援センター

大分県地域リハビリテーション研究会

一般社団法人 大分県スポーツ学会

株式会社 有菌製作所

学校法人 平松学園

学校法人 後藤学園

公益社団法人 大分県臨床検査技師会

公益社団法人 大分県栄養士会

公益社団法人 大分県臨床工学技士会

大分県視能訓練士会

一般社団法人 大分県医療ソーシャルワーカー協会

一般社団法人 大分県歯科衛生士会

公益社団法人 大分県放射線技師会

公益社団法人 大分県社会福祉士会

一般社団法人 大分県公認心理師協会

大分合同新聞社

OBS 大分放送

TOS テレビ大分

OAB 大分朝日放送

ロゴマークについて



九州作業療法学会2024in大分のテーマ『挑戦～作業療法士はイノベーションを起こせるか～』に沿ったロゴマークとなるように考えました。

デザインは、大分の作業療法士、宮成萌華さんです。作成時は、「見る人の目に止まり興味を惹くようなロゴマークを作りたい」「大分県の魅力や取り組みを知ってほしい」という思いで作ってくれました。

左のキャラクターは、大分県作業療法協会の公式キャラクター『おっていー』くんです。そして、宇宙人は、現在大分県が挑戦している『宇宙港』、『宇宙ノオンセン県オオイタ』をイメージし、宇宙人を載せました。本学会は、大分・九州から、イノベーションを起こしていくことを目指しています。



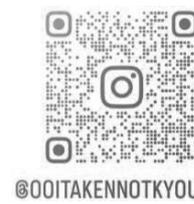
ホームページ



@ALIEN_U_OITA



ホームページ



@OITAKENNOTKYOUKAI

編集後記

九州作業療法学会2024 in 大分、学会誌が無事完成し皆様にお届けすることができました。準備委員会設立から早や2年、佐藤孝臣学会長を先頭に「挑戦」作業療法士はイノベーションを起こせるか、をテーマに誠心誠意準備してまいりました。この度、無事に学会誌が完成し皆様にお届けできることを準備委員会一同、安堵と感謝の気持ちです。

今回の学会は数年ぶりの完全対面にて実施します。2日間に渡り、講演を3つ、公開講演、教育講演とセミナーを3つ企画しております。内容は幅広く、興味深くなっておりますので多くの学びを得ることができると思います。

加えて、一般演題は指定演題を加えますと150題を超え、ここ数年間に渡り何かと制限を強いられていた皆様の学術欲とエネルギーを感じています。

また、1日目、学会終了後は会場内にてレセプション“きちよくれ大分ん宴”を企画しております。大分の食材やお酒を用意し、特別企画や温泉の素作り体験など用意しております。楽しんでいただけること間違いありません！ただ、残念ながら一般参加者80名定員となっておりますので、是非早めの申し込みをしていただけると幸いです。

最後に、本学会開催にあたりご協力いただきました団体、企業様に感謝申し上げます。学会当日、皆様とご一緒できることを準備委員会一同、楽しみにしております。

九州作業療法学会2024 in 大分
準備委員長 藤原 一

〈次期開催予定〉



九州作業療法学会 2025 in 宮崎

VISION

作業療法の“これから”を考える

2025.6.18_(水)・19_(木)

会 場：シーガイアコンベンションセンター
〒880-8545 宮崎市山崎町浜山

学会長：津輪元 修一（宮崎県立宮崎病院）

主 催：九州作業療法士会会長会

九州作業療法学会 2024 in 大分

発行者：九州作業療法士会会長会

事務局：九州作業療法学会 2024 in 大分 事務局
〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2
大分県作業療法協会ビル
TEL：097-547-8662
FAX：097-547-8663
E-mail：kyuot2024@gmail.com

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



九州作業療法学会2024 in 大分 事務局

公益社団法人 **大分県作業療法協会**

〒870-0038 大分県大分市西春日町3-2

TEL:097-547-8662 FAX:097-547-8663

E-mail: kyuot2024@gmail.com

学会HP <https://kyuot2024.secand.net/>